茶之湯三傳集　三

477

茶之湯三伝集巻之三

盆點之巻

三足ノ大盆點之事

同足ノ手盆點之事

一足ノ手本勝手出炉真之盆點之事

同足ノ手小及臺盆點之事

同柳棚盆點之事

同足ノ手飾棚盆點之事

同織部老古盆點之事

同利休老古盆點之事

同炉蓋子之盆點之事

風炉盆點之事
本勝手臺子盆點之事
長板風炉盆點之事

帒茶碗之次第
帒棚荘袋茶碗之事
四畳半小及臺帒茶碗之事
同棚搦左右帒茶碗之事
炉臺子帒茶碗之事
三畳大帒茶碗之事
一畳半帒茶碗之事
風炉帒茶碗之事

臺子袋茶碗之事

臺天目乃次第
四畳半炉臺子臺天目之事
三畳大大勝手臺天目之事
一畳半本勝手出炉臺天目之事
四畳半太勝手棚搦左右臺天目之事
同本勝手袋棚臺天目之事
同小及臺子臺天目之事
太勝手風炉臺天目之事
臺子之臺天目之事
真臺子十八ヶ条之事

亭主振之事
掛物次第の事
惣して茶具炭の道具掛物の事
通の次第の事
莊の事
鎖の間の事
御成之次第の事
家来者御茶ニ下時の事
貴人譍答の事
水手掛物の事
手水鉢柄杓懸掛の事

石燈籠の事
路地の燈の事
すゞ之の掛物の事
不時の客之事
囲炉裏风爐極の事
囲炉裏縁の事
莊りの事
侘人亭主振の事
菓子振舞の事
刀脇指口傳の事
續口切の事

釜の蓋ほまきの事

斤口極の事

数寄屋巴替戸の事

路地うら入様の事

数寄屋腰掛侍合の付様の本式の事

数寄屋路地掃 マはしの帚八の事

三重之大盆點之事

其しまの八先茶碗を左ニ持出水盃の内蓋置入替

お茶の如く置居候居て

時宜云又茶碗帚のごとく丸出し

茶入左にし丸下

よ袋ねぢ解

茶碗の縁を帛紗

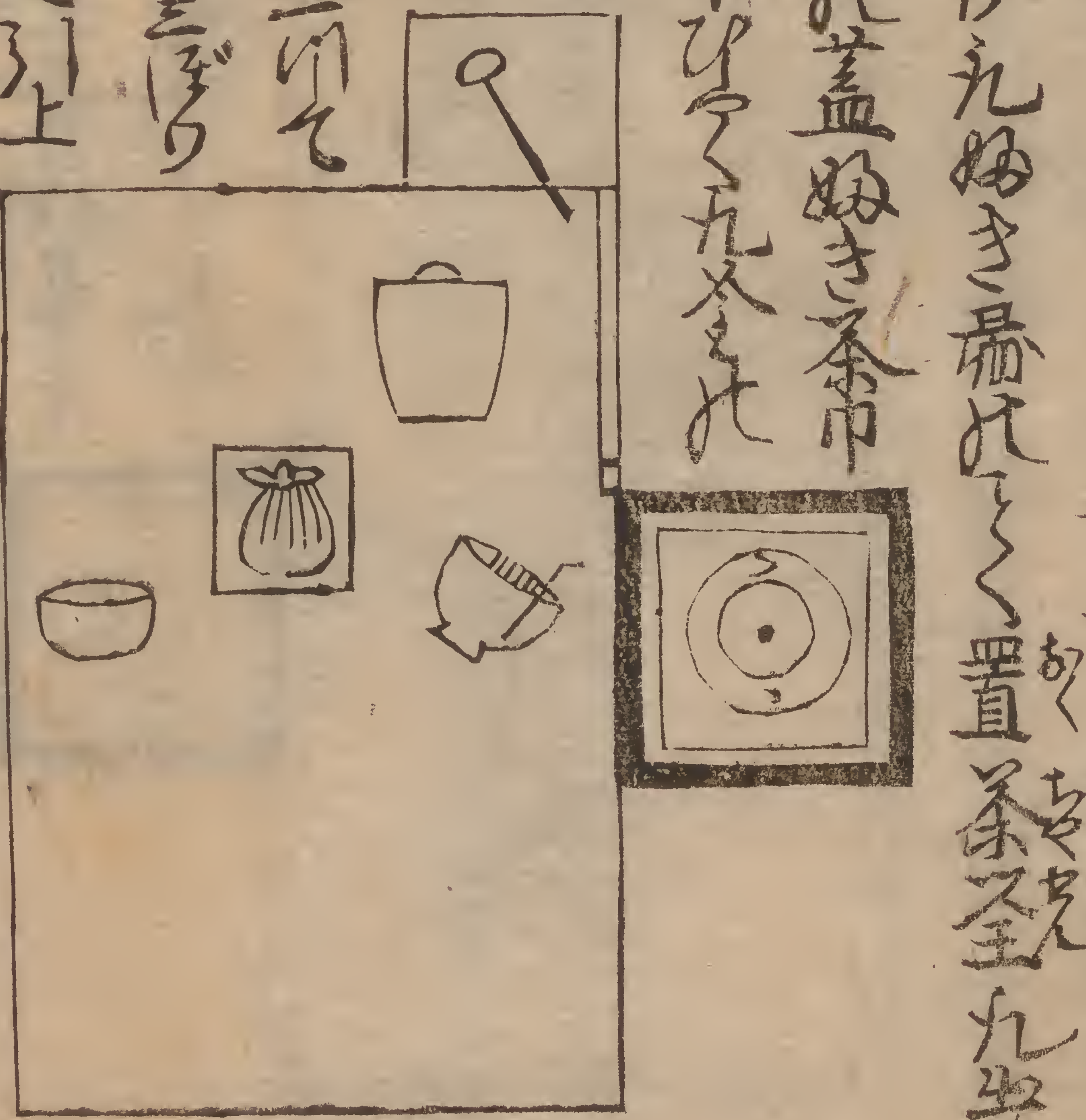
丸出し左ニ右盆を

かう堂し膝まへの方

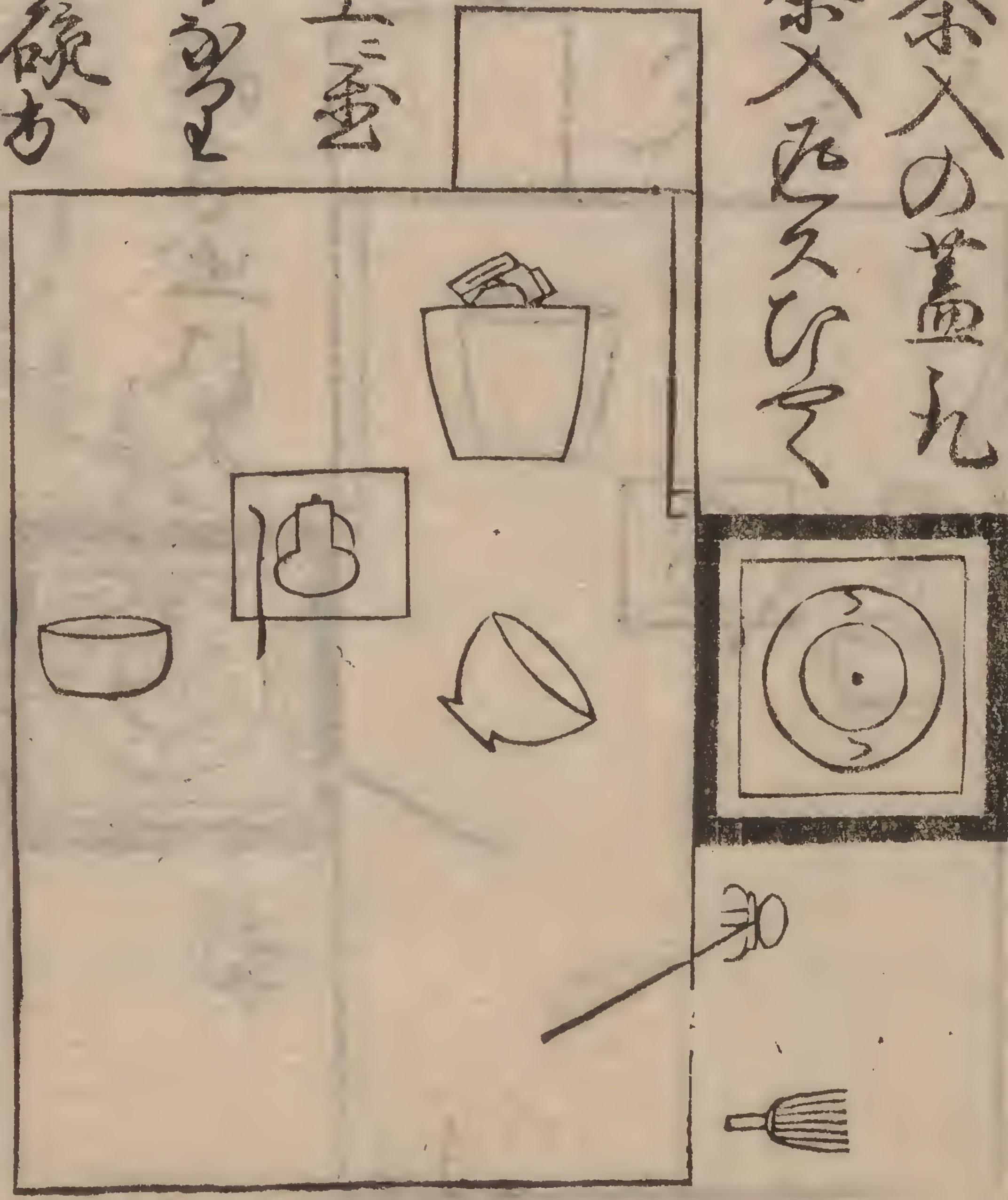
一お上向々手の入ニ河横ニぬきふきすての方を立ニぬき

切添ニ盆を置帛紗にてたゝみ左ニ右茶入丸上ぬきさ

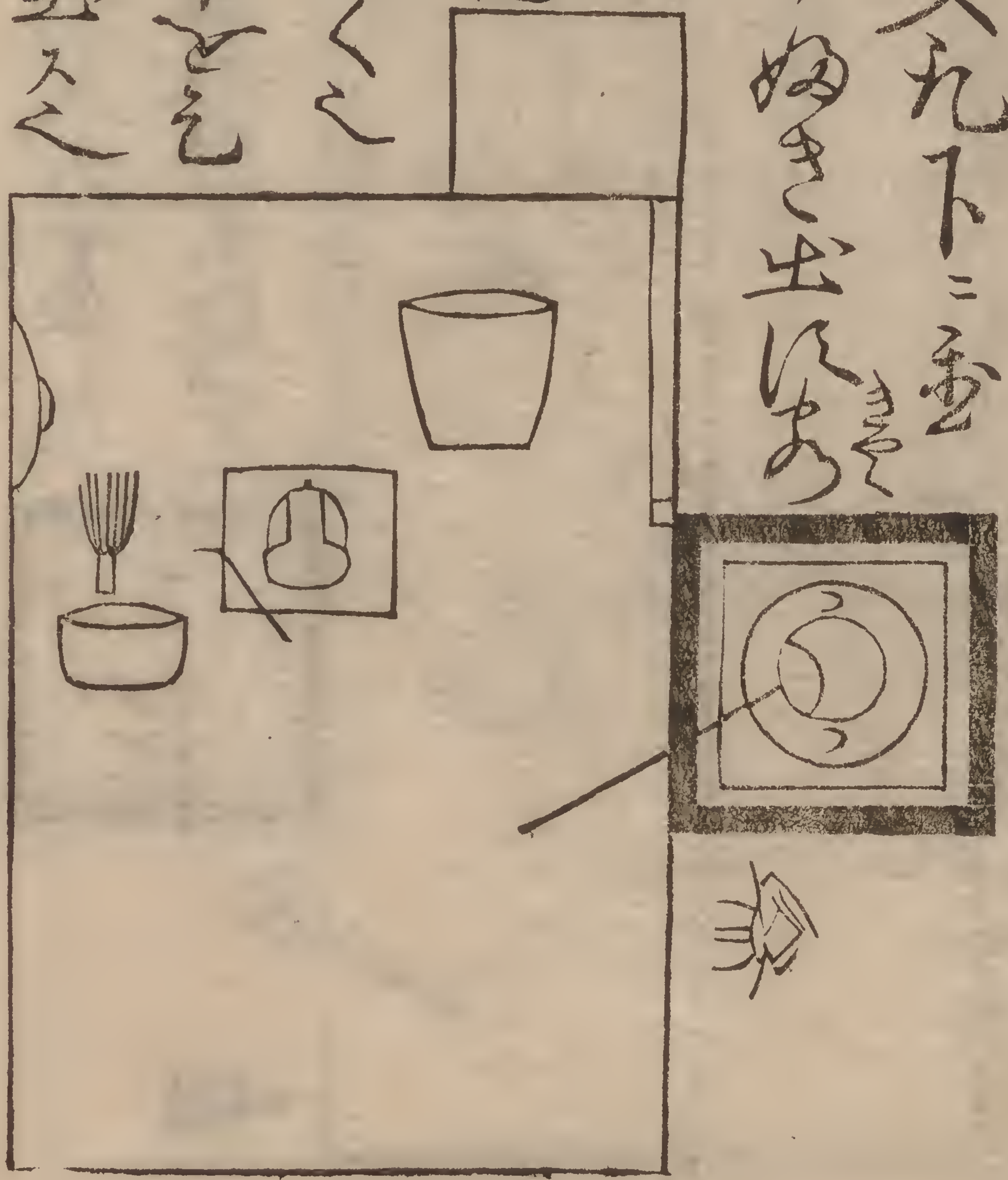
帛巾ハ懐中して右の手茶入の蓋茶杓又帛巾の上ニ一
けうしたゝみ茶杓の上ぬき帚れいく置茶釜の上ニし帚
の上ニ置水指の蓋ぬき茶巾
上茶碗の口一ぴつくの上ニの
蓋の湯ニ移
入茶巾蓋しめ
茶碗の湯次ニ明て
下ニおきて茶巾たゝみ
上又湯次ニして上
帚ぬき茶巾ニ置茶巾取茶碗を湯取ぬき下ニ置茶巾
左の方よりし茶入の茶入れ蓋の上中へ置ニ置き



だしてと云羽ぼうきにて茶杓の茶入と入ぬいさに
ぬきはし此羽箒とくと云羽ぼう支也茶杓茶
碗ニ置右し茶入の蓋の
して右し又茶入をひろひて
の蓋の湯を
入茶巾の湯を
川上れ盃の上ニ置
色盆點の羽き
帛巾出し茶碗ニ
を清中まゐ常の通ありて茶碗のうちをぬくと
次いきとすト下ニ置のあり



湯すくいしてをき茶釜又元の所に置なり
おさむる時も扇の通也茶入を元の所へひげの如く置なり
し扨茶入の下に置
帛巾の出しぬき出して
盆ともに又帛
巾にて茶碗を
おのくにぬぐい
拭出す時帛巾ともに
おさむる時も出す
その外道具の入
一 茶入の盆点もおさめ様前の如し 茶釜と水盆



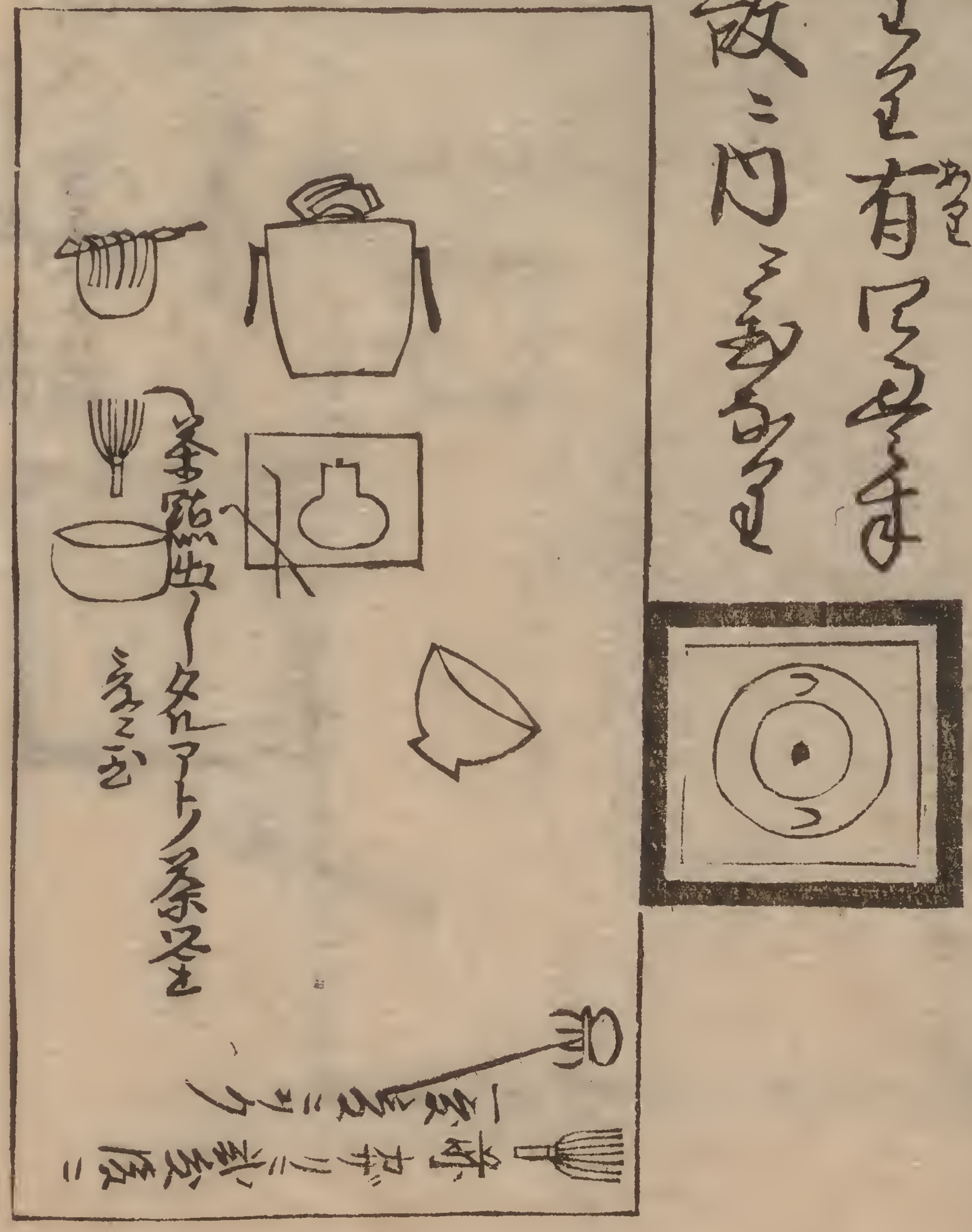
の上へ出す時左の手にて建水をせんの所へ引付る
なり

一 盆点と云ハ茶入唐物の名物か主人分秘蔵の茶入を
すへ茶の筆
八寸歳の盆を
唐物にする
台子の丸盆を
茶盆のまは
又和物の盆を見て用なれども
し候に所口伝に有べし

是より末本勝手盃點の事

一 三重之大盃點ニ樽支ありし茶碗の臺一個入ニ重ねて是ニ重ニ此以上有る手八居下太台の故ニ内ニ重ねる也

一 並の茶碗臺點と云事也臺を水指の外を置て臺を為遠慮之臺の臺



一 本勝手の時ハ茶碗を置之外此ものニ樽を支ありし臺ニ置て臺ニ茶を點る

右ハ盃の條ニ為遠慮を容ものニ重ねる也

一 臺の本勝手にてものゝ臺點出爐

一 臺點の事ありし

茶道常の如く釜有るを知ることなし

爲ス

一 角爐ニも臺點有茶碗を點出爐のものニ而後置く也

一 右勝手出角爐の事云踏ものゝ有茶碗の臺一つ置也

四ツ足小及台盆點之事

一 此台子點様ハ何ろ方丈なとにし 盆合千利休既ニ常此

通之茶堂此盆不用此とし候

よ盆土台方丈ニ座也 其台ニ台

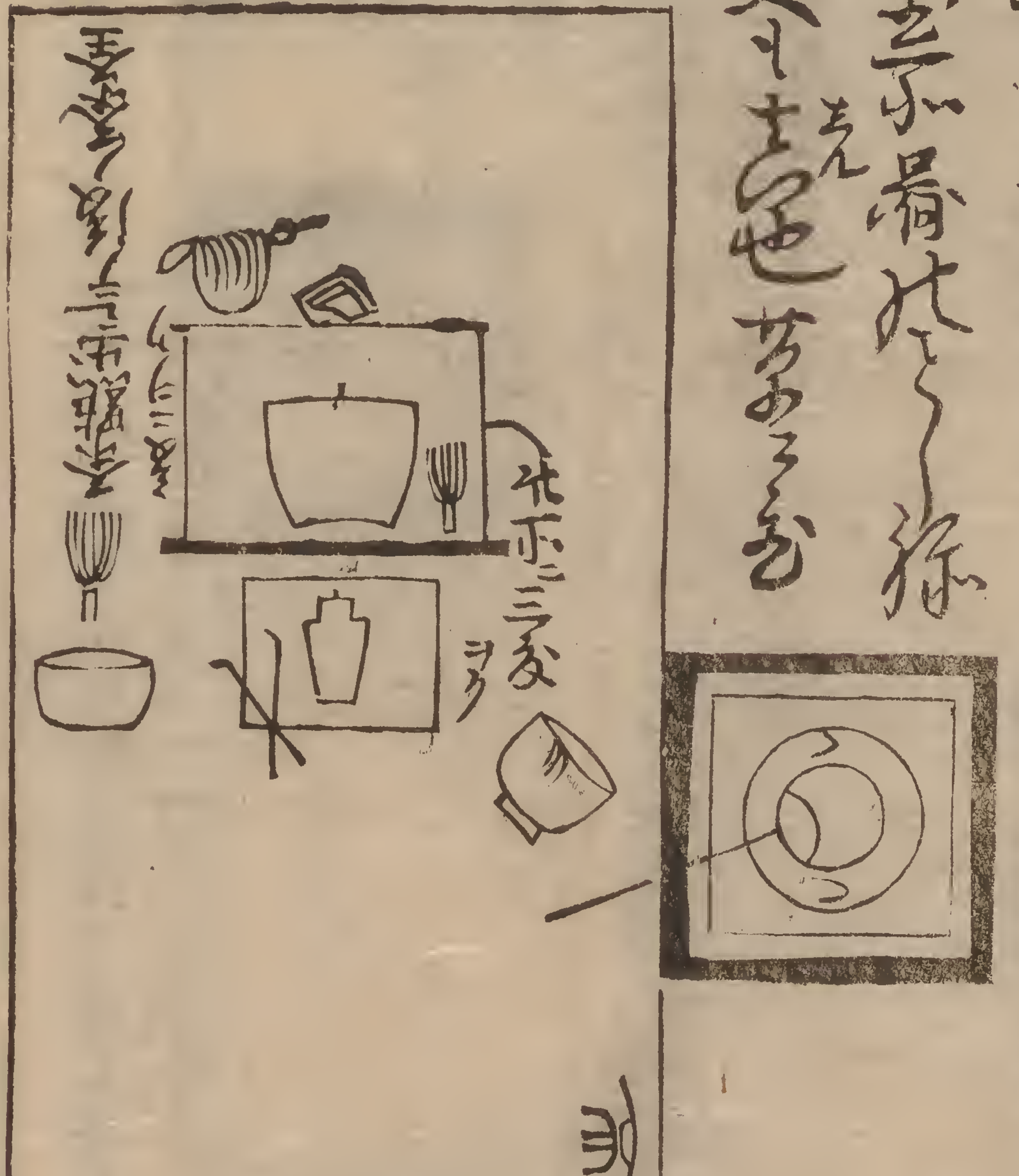
よ八おうる様ニ

と曰アして為之

遂て重ねるを

此様之様ニ付之

口傳



楹様棚盆點之事

一 此棚ニ而ハ楹様なる盆點ハ常此

よおよかにる方丈なし 茶堂

盆不用此とくし

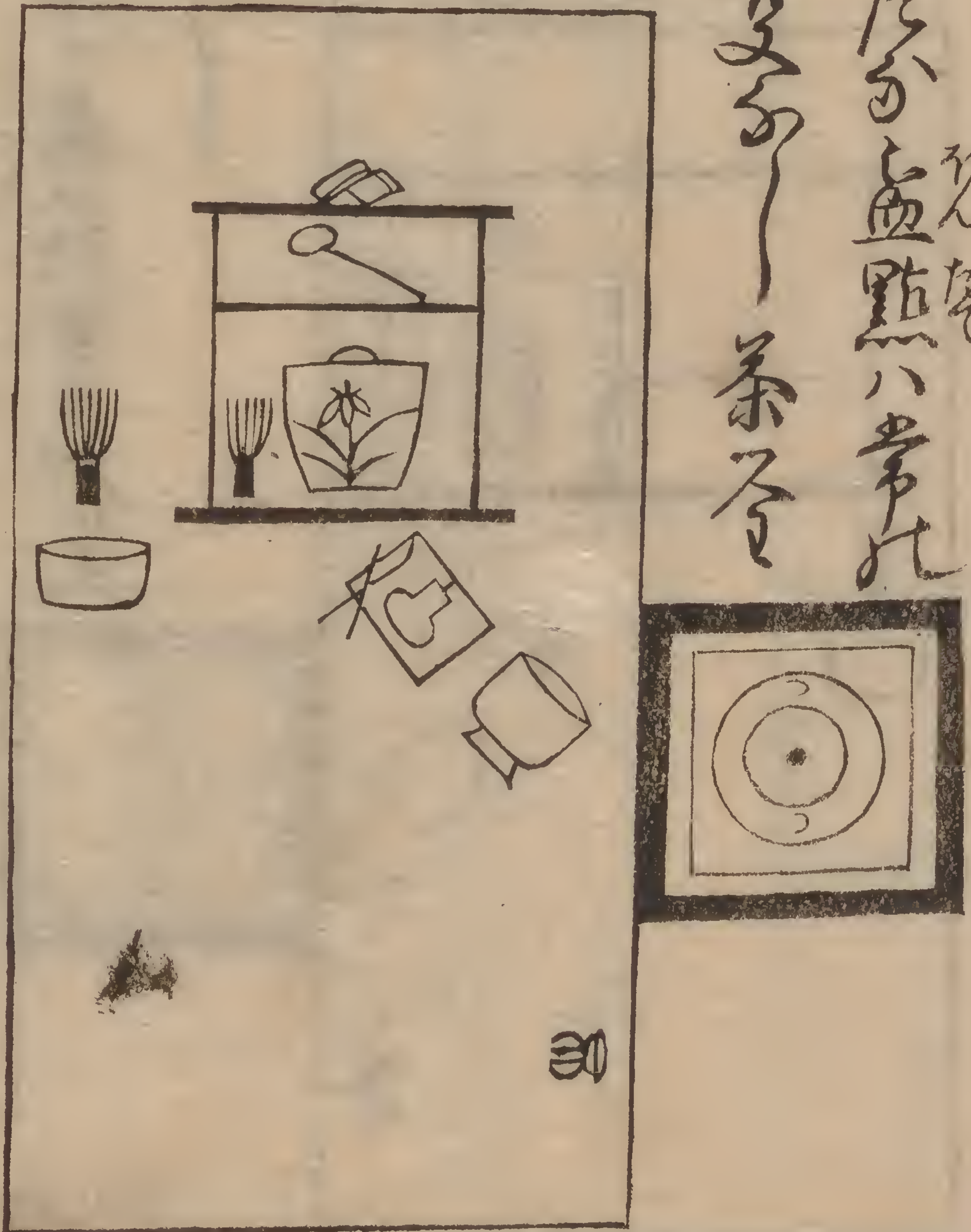
茶點て後茶堂

水盃此上ニ置之

一 太様之同お置

茶之點ニ方丈も

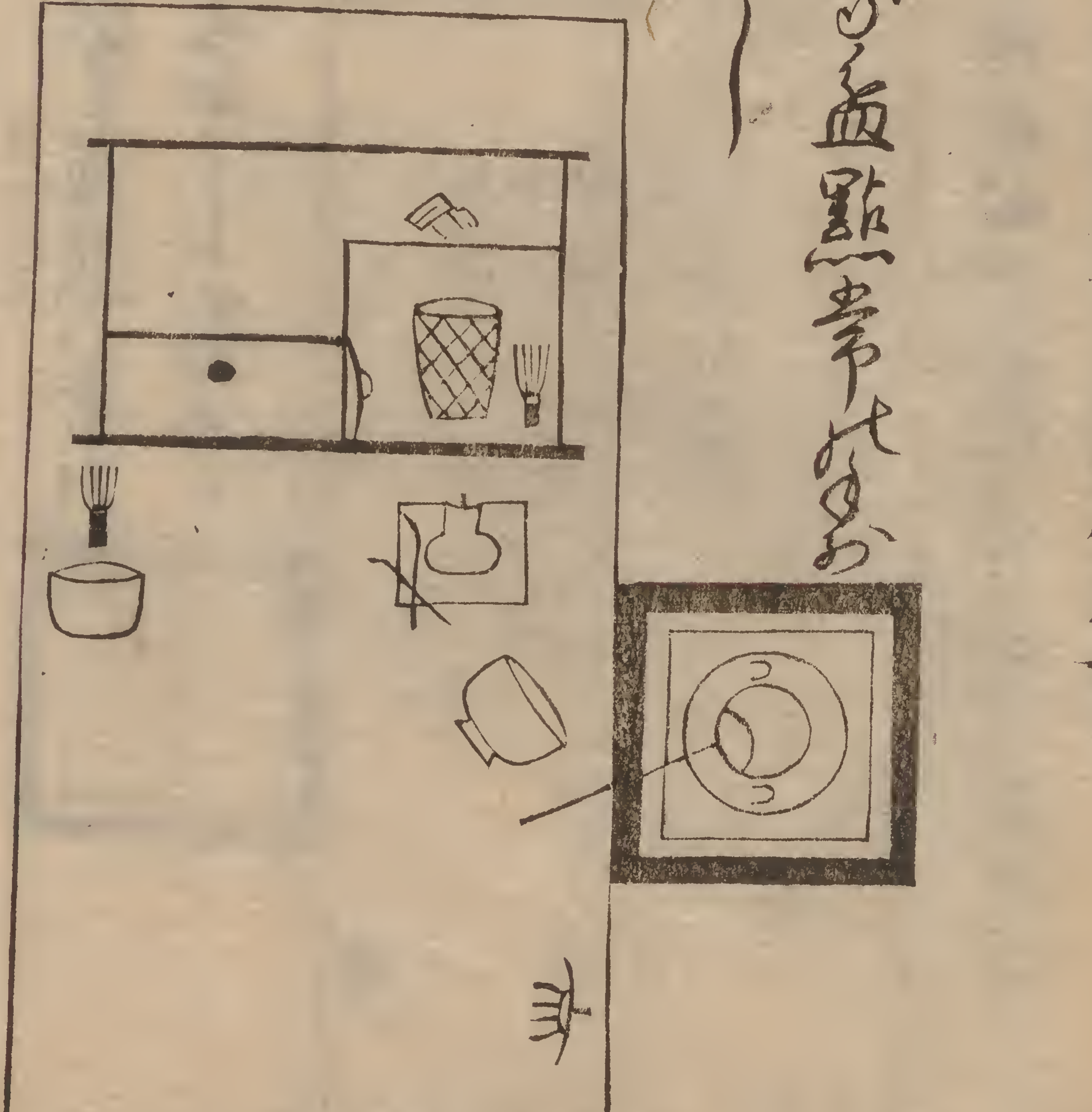
何之又おいて盆此時ハ水指おこ様重ねるを



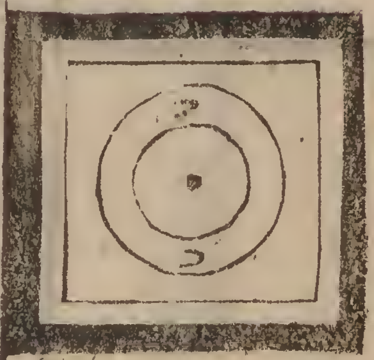
同く手袋棚盃點之事

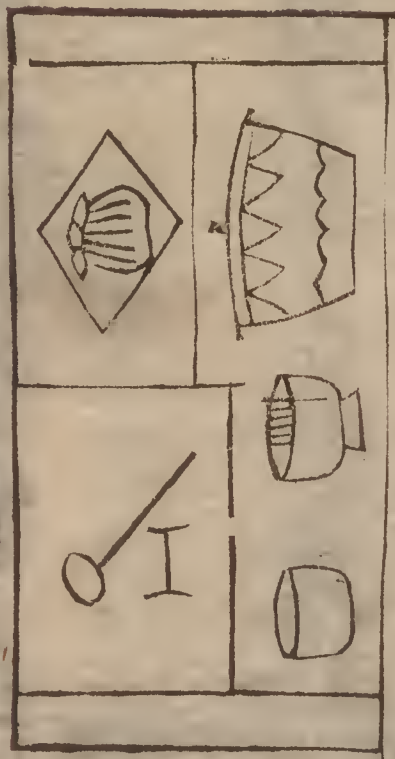
一 此ときハ袋たゝみ盃點常のことく
まいらすへし

一 右棚ニ同事之
茶入ハ袋より
茶入水盃上
翻付茶碗左へ
丸之事ハ口傳



同く手織部臺古盃點の事



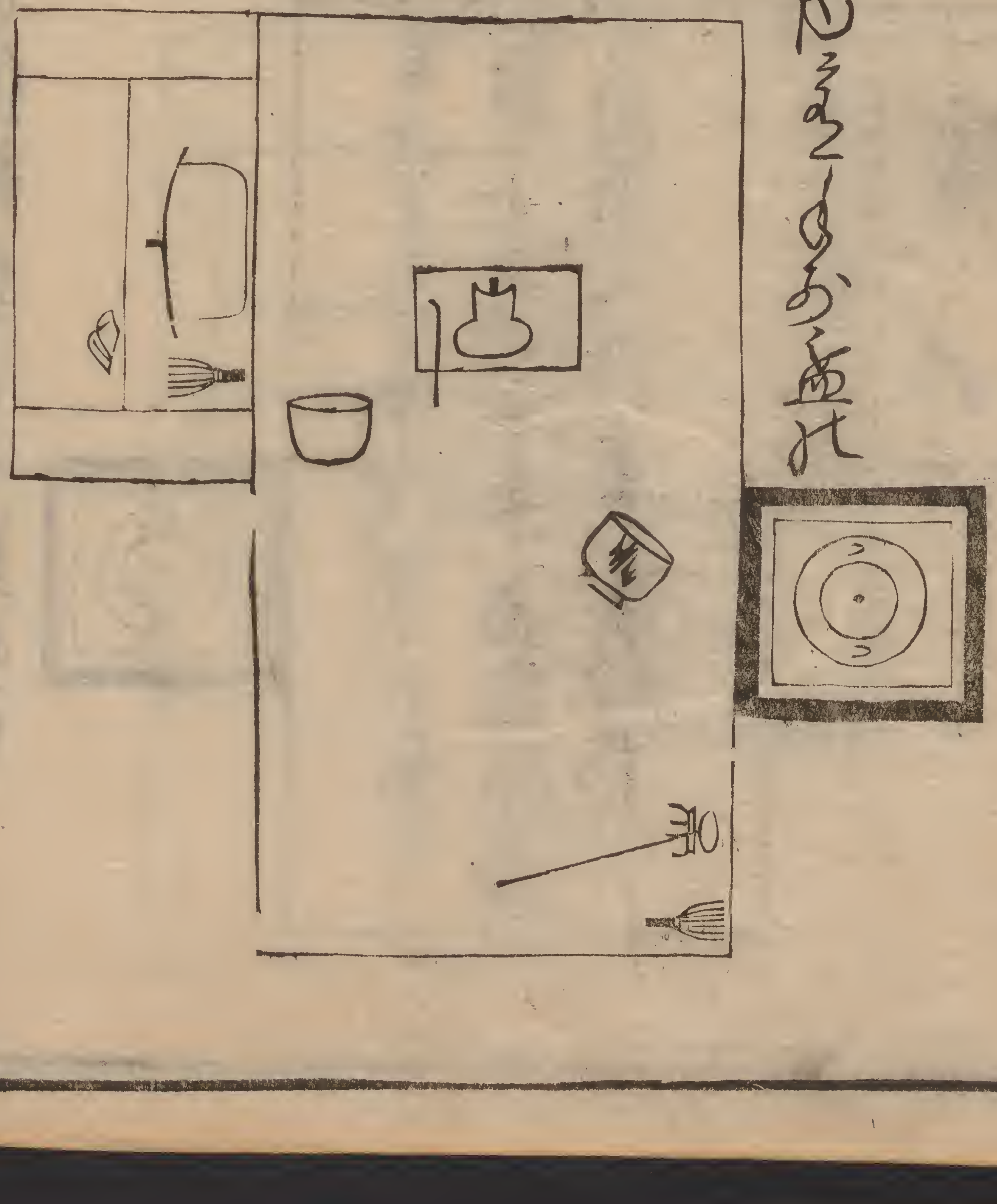


常のことく臺に替仕そへてかく
丸出して八同く手盃點のことく
之同事也故ニ最ニ皮口傳

同宗易利休常居盃點之事

一 此ときは水指内にておき盃點
進言答なるを
常に心得へし
るへし

一 此壹を置し水
指を取出し
同手にて持て
入るへし
何るを



炉臺子盃點之事

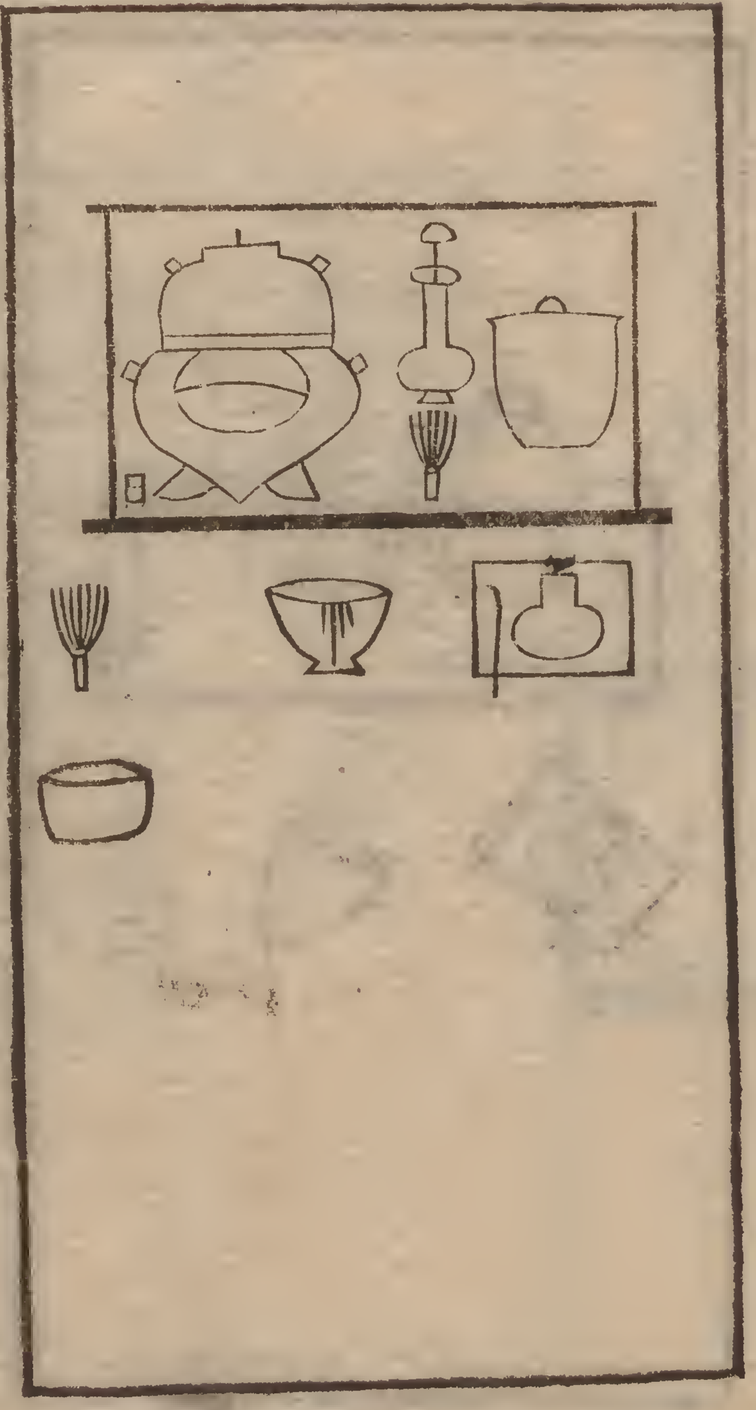
一 此ときは點前かはる事なし
常の時は盃點之手まて
なるを心得へし
茶碗は内に置
水指の上に茶巾を
茶入茶杓にて
て茶碗をすゝ
かるを置手上二其茶碗

風炉盆點の事

一 此まへは常の台子の盆點の仕やう也 同し事なり
茶入は袋をつゝみ羽箒のことし 右の棚にて茶巾をする
蓋は何も風炉の前にて置事之居

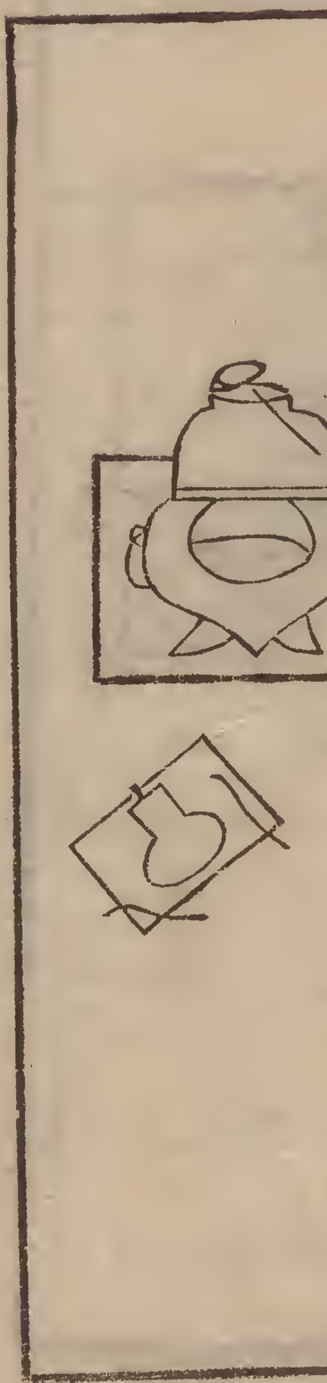
台子盆點之事

一 此まへは町人風なれば 茶入は盆に羽箒のことし 壽八
釜の蓋風炉の脇に置なり
一 台子同前 まへは何も同し事也



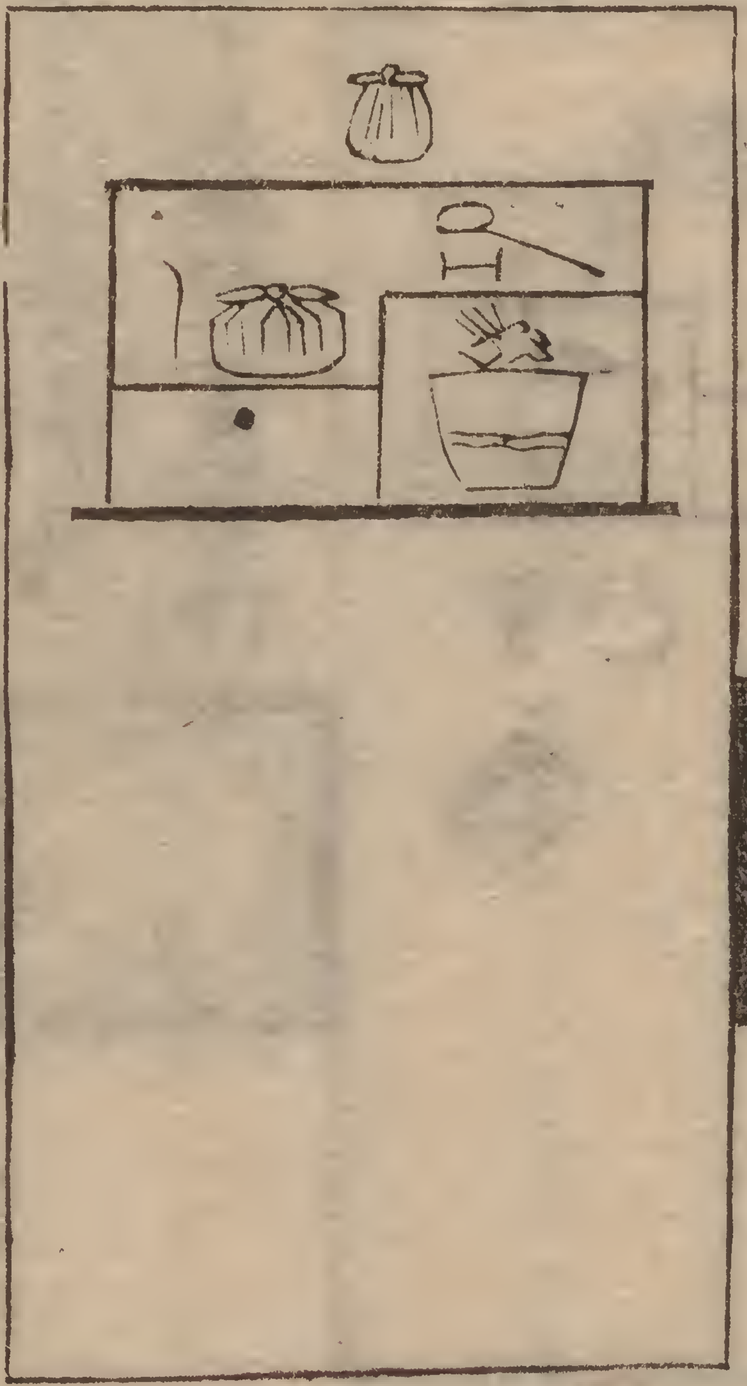
長板風炉手前の事

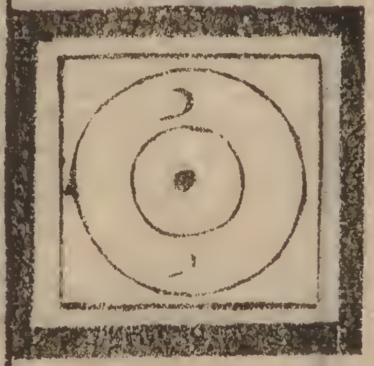
一 此手前は右勝手より手前也 盆點にて手前也 水指の前
を柄杓立の上に置 又は何にても置事 口伝



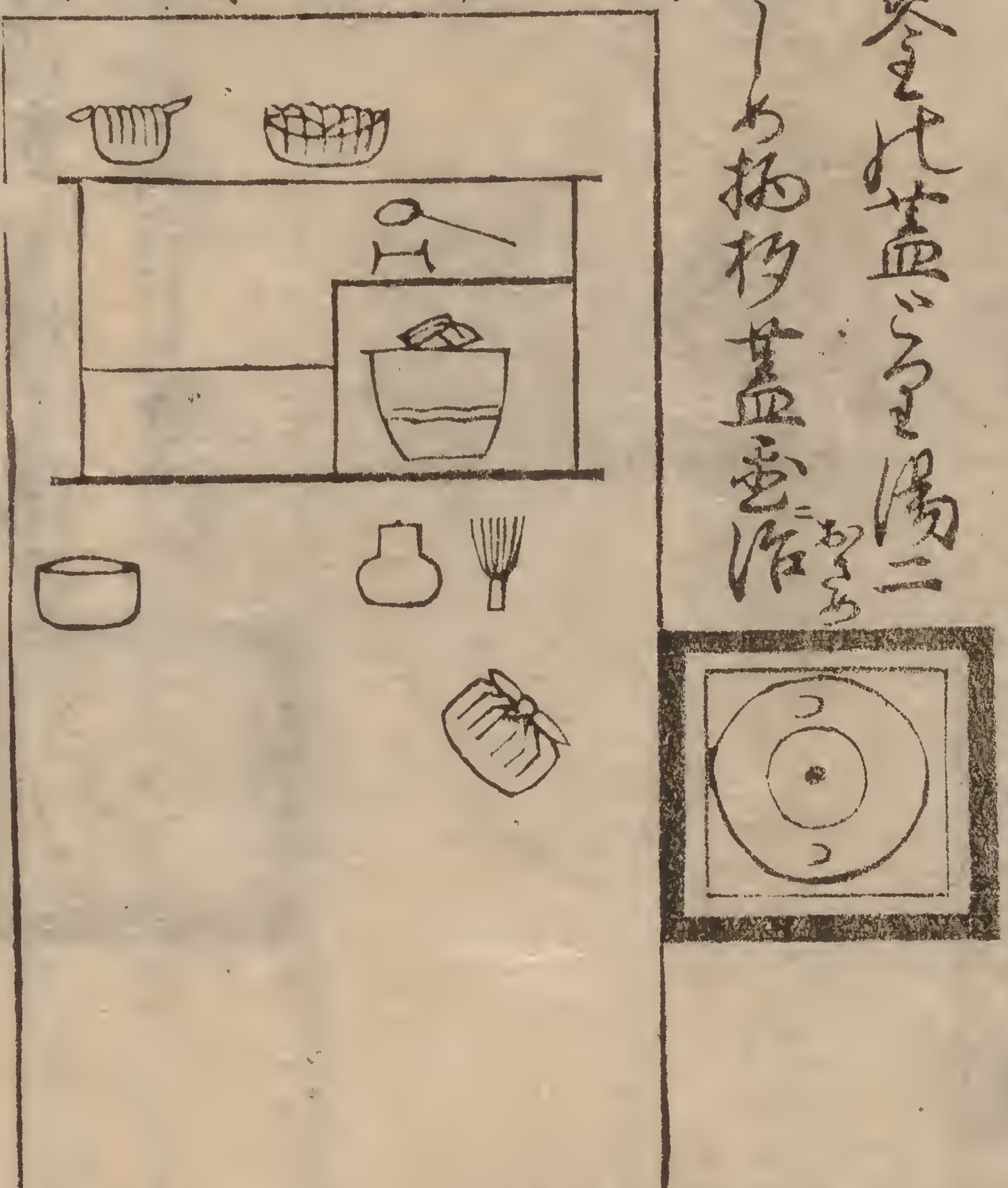
袋棚袋茶碗の事

一 此手前の帛巾捌は常に出し先茶入水指の前へ持出し
棚袋の戸客の方へ付て手を
ひらき茶碗盆を取出し帰る如
置合せ居る
合居して時宜
茶入を出し袋
ぬき帛巾にてふき
して茶入巾ひ
えに荘て帛巾にてふき茶杓を取ひ茶入にうけ茶釜の荘る
扱ひて茶碗を出し右の上より押へ右の中の結ひ

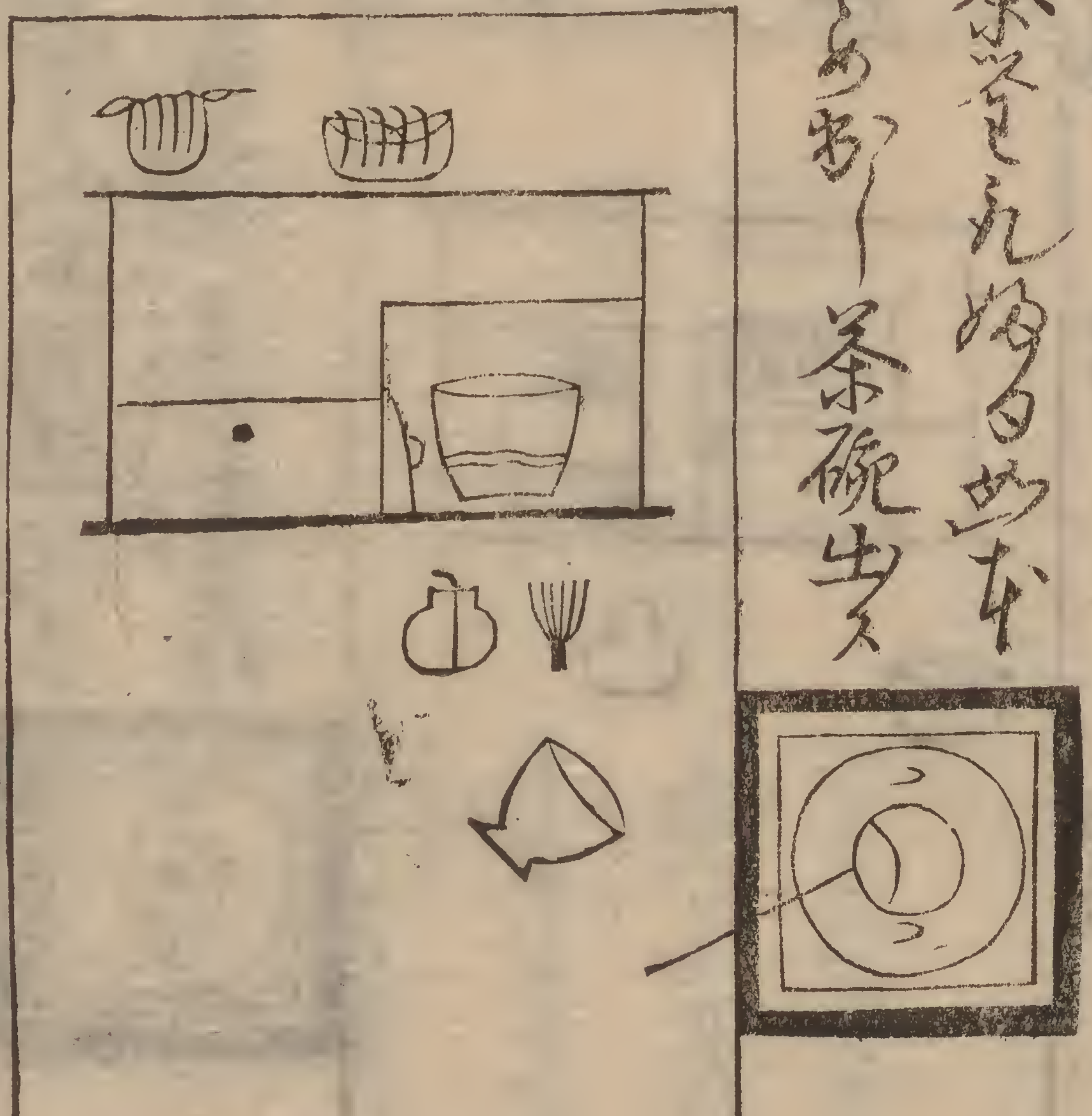




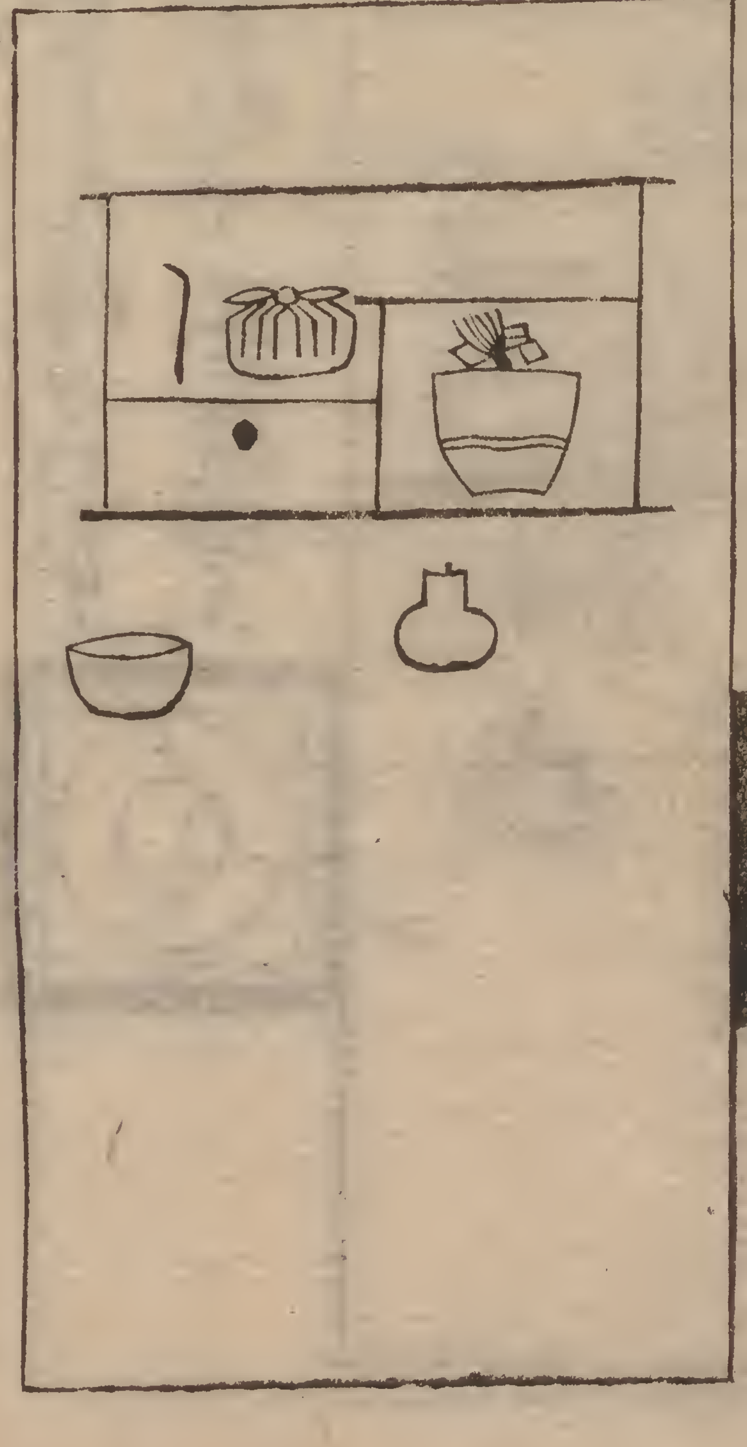
よろしきくらゐ飯呉口隠ちやうへ向け茶碗を出し下に置
偏中へ袱紗と内はかへ主客入棚の末前に上置蓋置を
取出し帛にて釜の蓋とらせ湯二
柄杓入釜の蓋しめ柄杓蓋置に
茶釜を三河湯
次し中に置茶巾
差向を揃め文など
其ごとく水指の上に
向け茶釜湯次
二為上ほころびを見せ座へ置し茶巾を茶碗引上湯と
捨拭下に置茶巾をさらに如此水こぼしへ向茶茶杓を茶入を

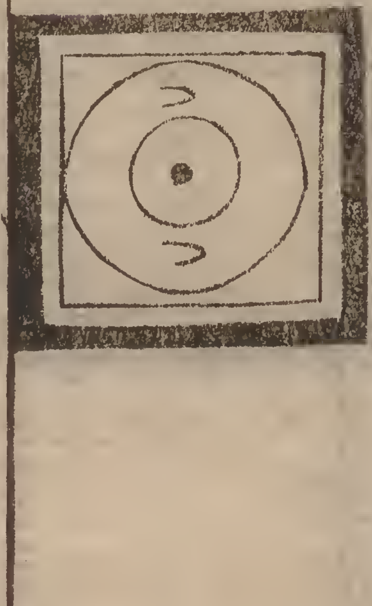


蓋取茶入を入る能ほどに入茶杓茶碗にうけ茶入を左へ置き
茶を服げ如此茶杓うけひしやくに釜の蓋に湯を能
ほどに入下に置茶筅を入れ始る如此
返し帛さばき置し茶碗出す
先ひしやくを取
釜の蓋を取柄
杓は棚上蓋置
し上置膝へ寄
客へ向き置く帛
飯ると始に置とれ出に釜を其蓋をとれ茶巾を蓋の上へ
上水指の蓋をひしやくに水一杓ひしやくに釜へ入し柄杓下に

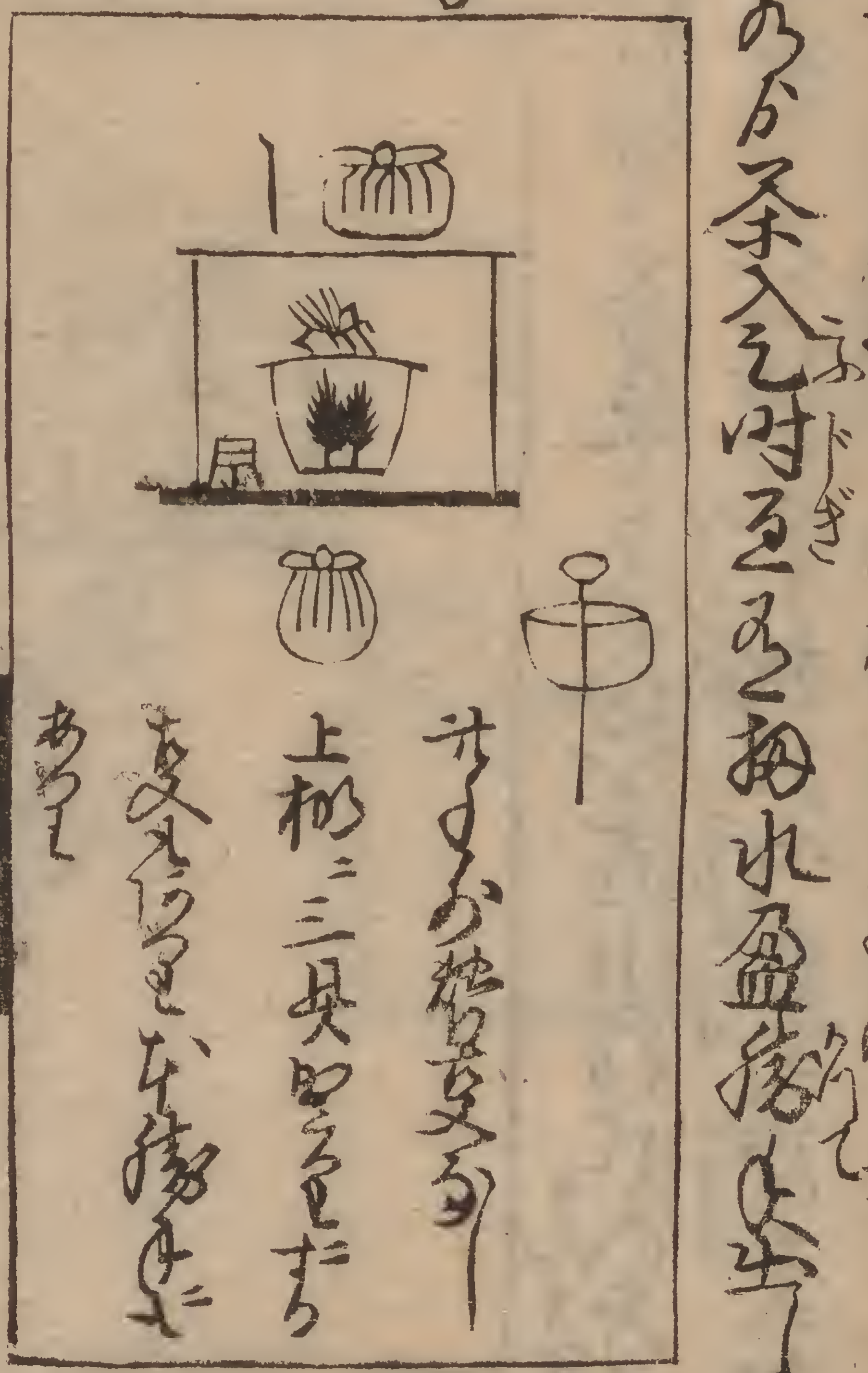


置合て其茶碗飯りとぬくらん置きをすへ下に置れ候を
柄杓ニ而湯而入茶碗とすゝき又湯を一柄杓入时まゟ
點茶ふ是ほあさんふ洞法仕く
此候給一巾と云客ゟ六附奉候
あつつと云く又
湯を而入茶釜を
湯次して上湯
とすて茶巾ニ而
ぬきて下ニ置茶巾
とさほ是其中偲釜此蓋此上へ上ル柄杓を取茶碗を入候
とすり其は不口傳柄杓へ上茶釣れ巾ひ上り柄杓を取れ出ると





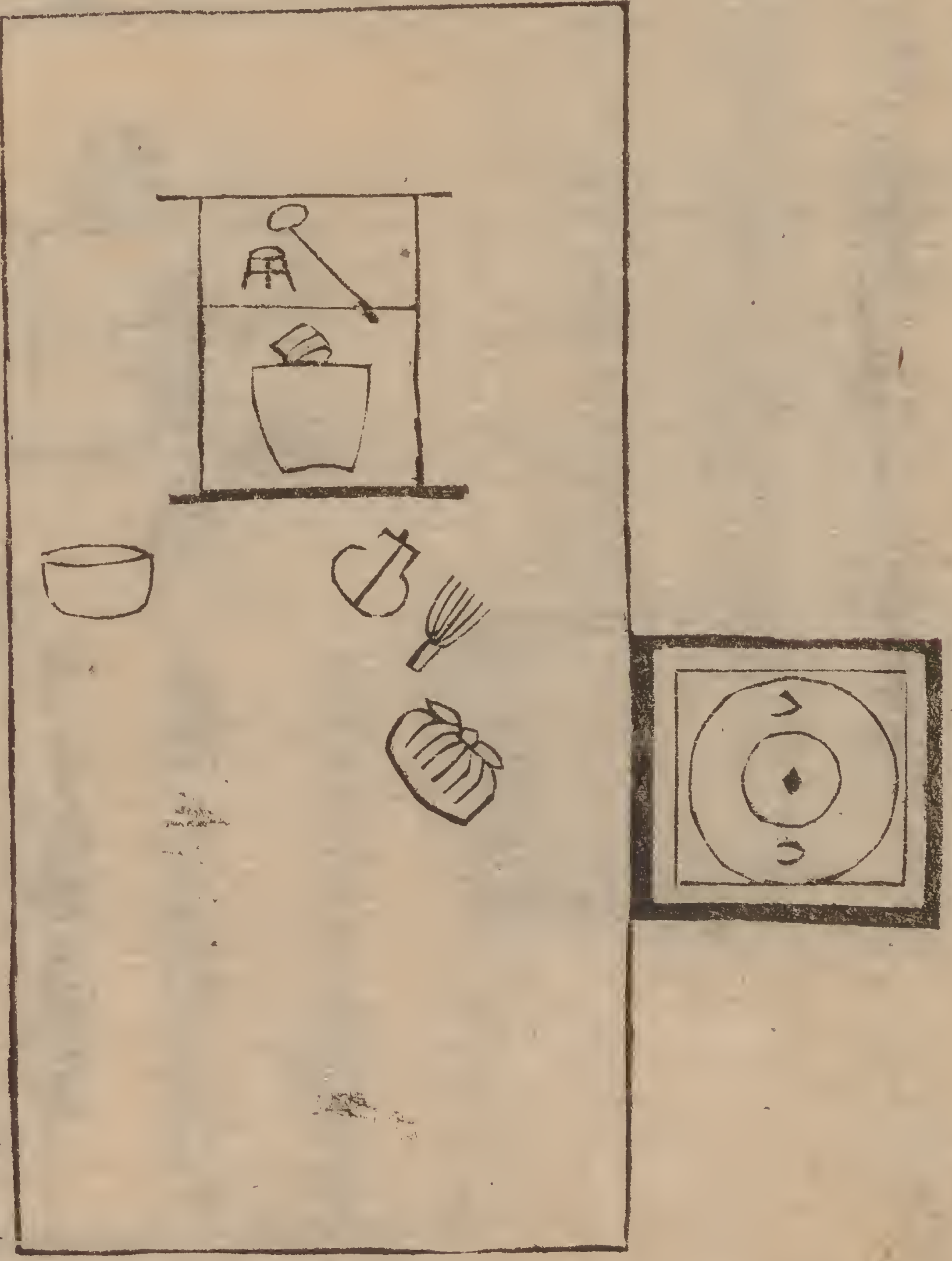
一同して釜此蓋をすり柄杓下ニ置柄杓向水指此蓋すり茶巾
上茶釜上ル时あり茶入之時置ゟ而水盃拭出ス釜又
巾ひ出ス湯ふ、
入て水盃を拭
後口入茶釜を
又湯ニ入て
一 大湯ふ同之
扨して此後茶碗　高麗ゟ名物
此柄杓て八代也ふ入放火桜書ゟ
點頭り答し手茶的拙を出ス口傳
何も是小体丸代長茶碗此事



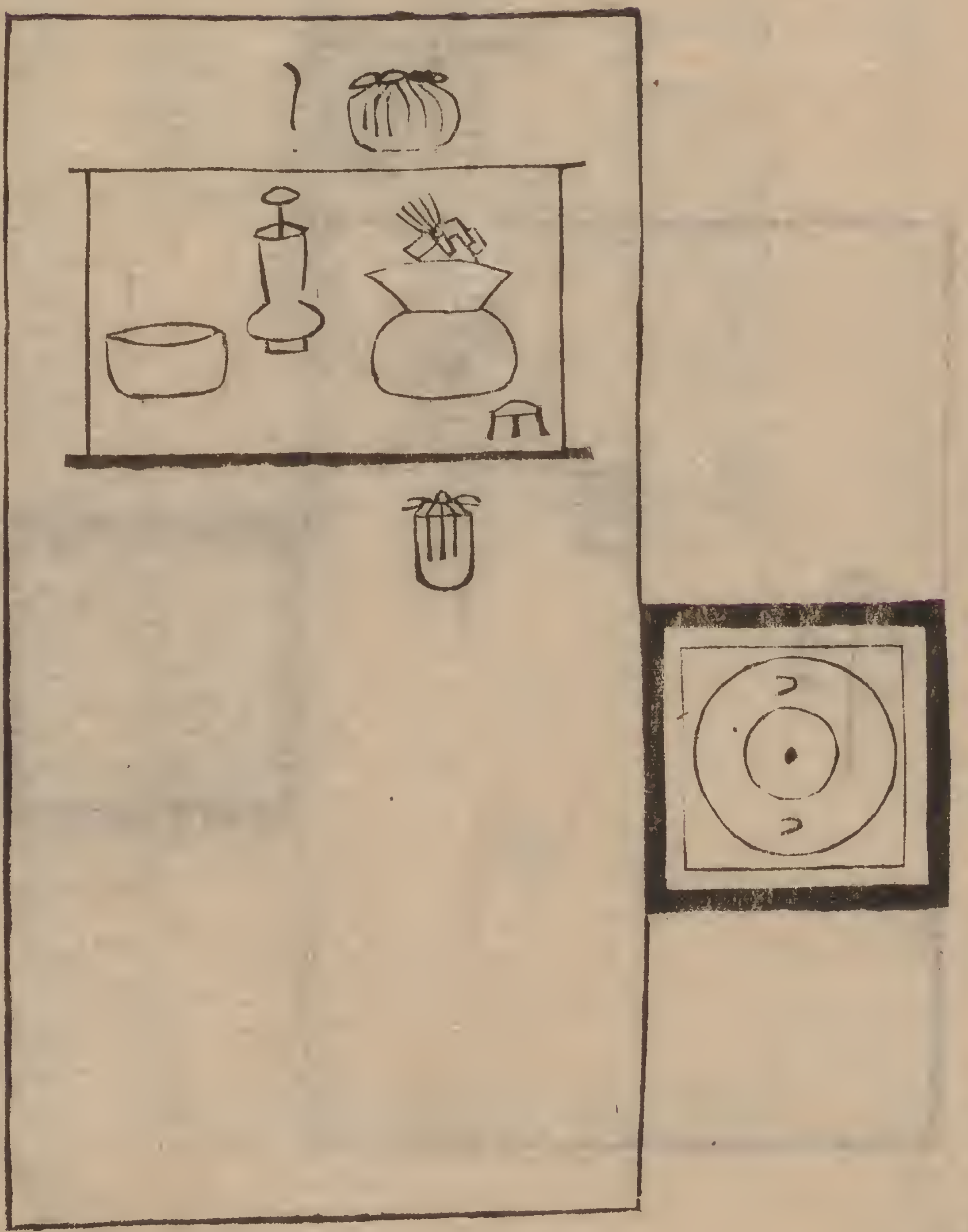
同まへにて袋棚たなの茶碗飾之事

一 此ま(の)荘ハ上ハたなニ茶碗と茶杓を荘水指ハ下ニおろし
此上ニ茶入を水盃ニ置之を掛物桃此心・踏之替ヘ可し

一 右棚手ニも此荘るゝともおもふ可し



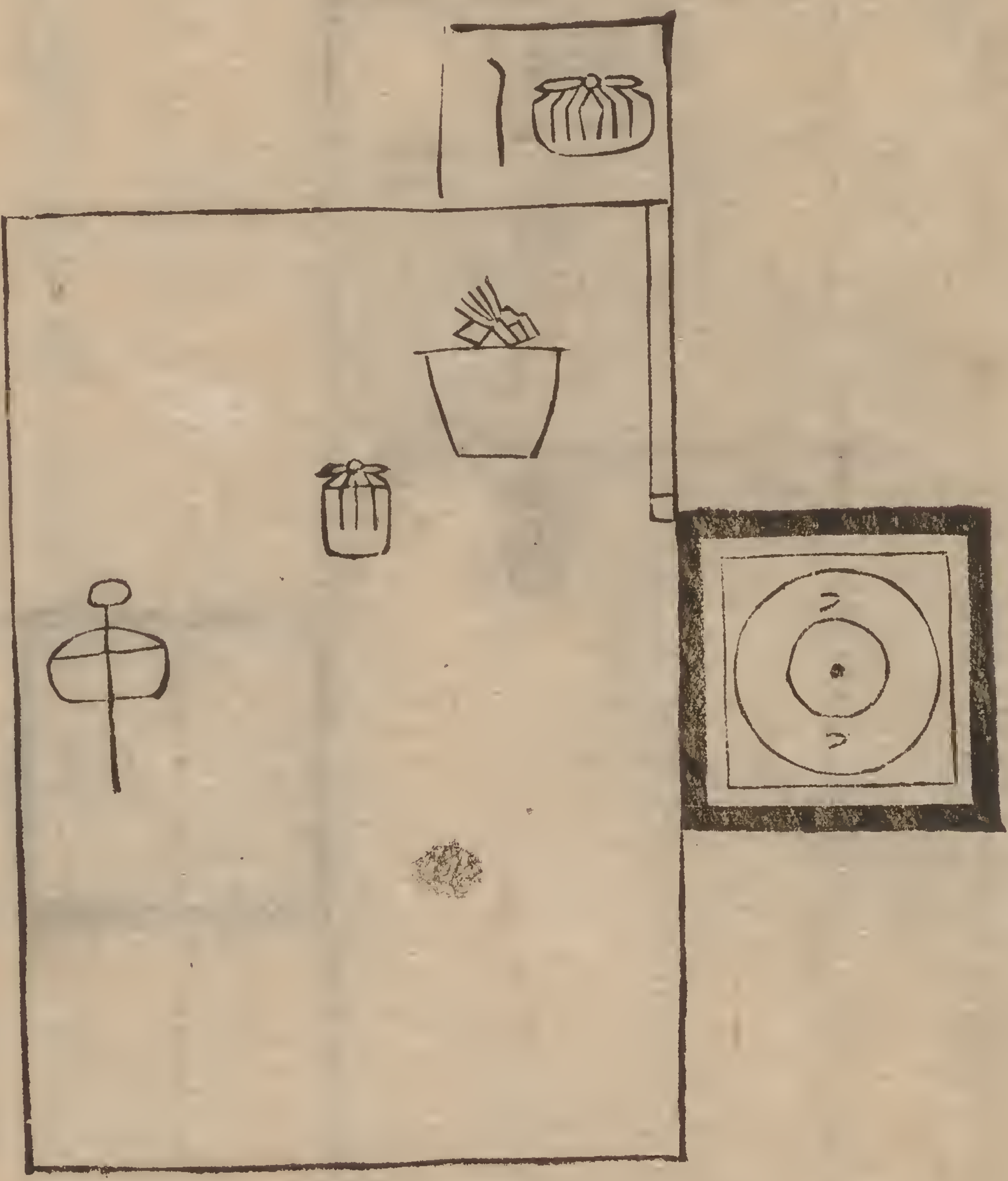
炉台子袋茶碗飾之事



一 此まお荘如く此とし點之時替ヘ可し

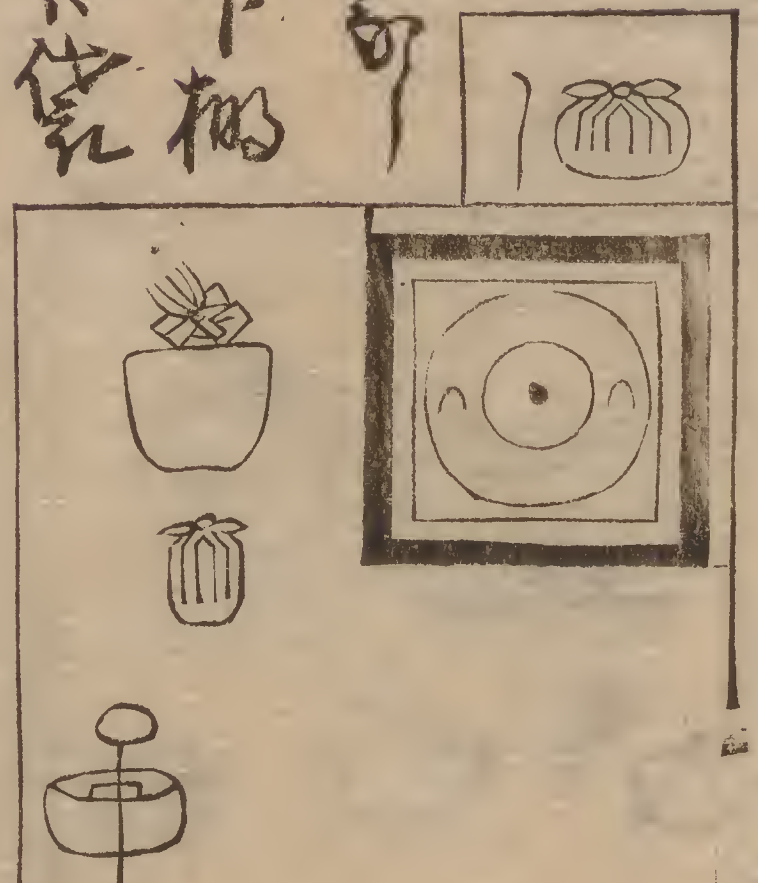
一 右棚手ニも此まお荘可き也其茶之事

三 重ゝ大臺茶碗の事



一 此ごとく荘り時ハ茶碗の臺ぬり物より上の棚へ上ル
其外點前ハ常のごとくなり 右膝の前ニ置

一 重ゝ天目茶碗の事



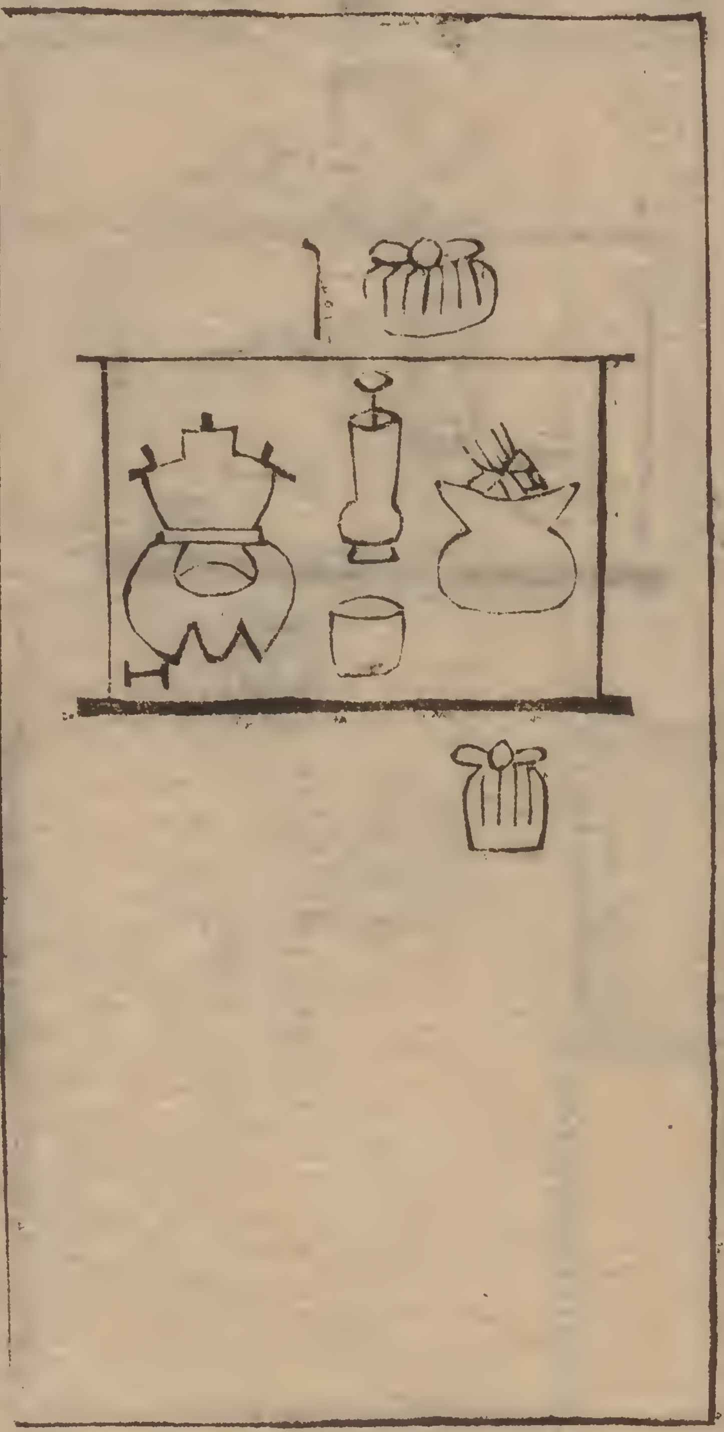
一 此ごとく楷書茶碗の荘ハ下棚
臺とねもとに置
ハ上の棚へ上ル 其外點前ハ常のごとくなり
一 右膝の前ニ置 此茶入ハ上の棚の上ニ置
角棚の右膝ニ置 其外ハ常のごとく角の角ニ置

風炉餝茶碗之事

一 此まへの荘りハ
此としるし踏みをしあに
臺子の時ハ柄杓此通りにおく也ハあしく此ほかに蓋置なし

一 茶入ハ茶碗の上にのせ此風炉茶碗右の方に置也又ハ次第に置也

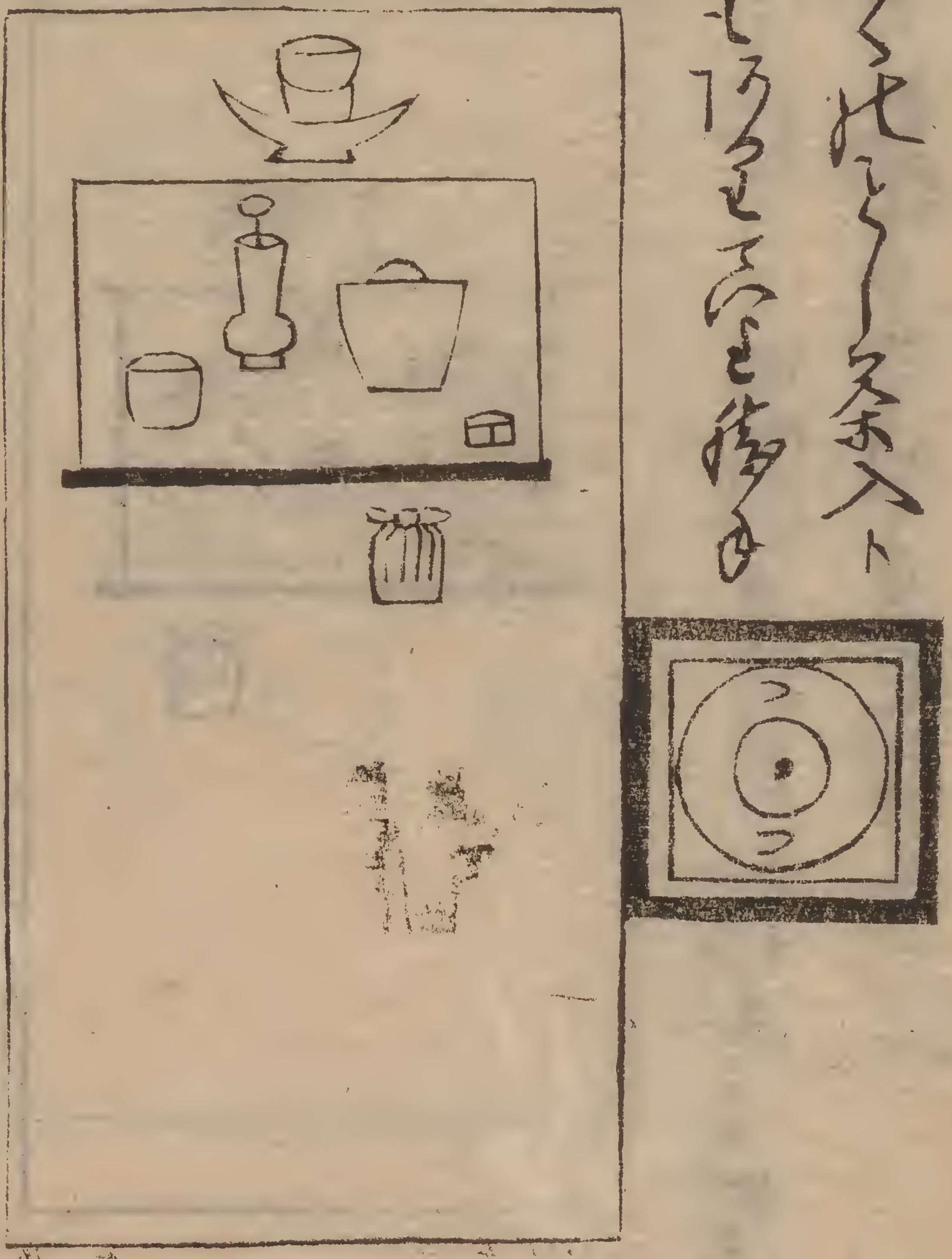
臺子餝茶碗の事



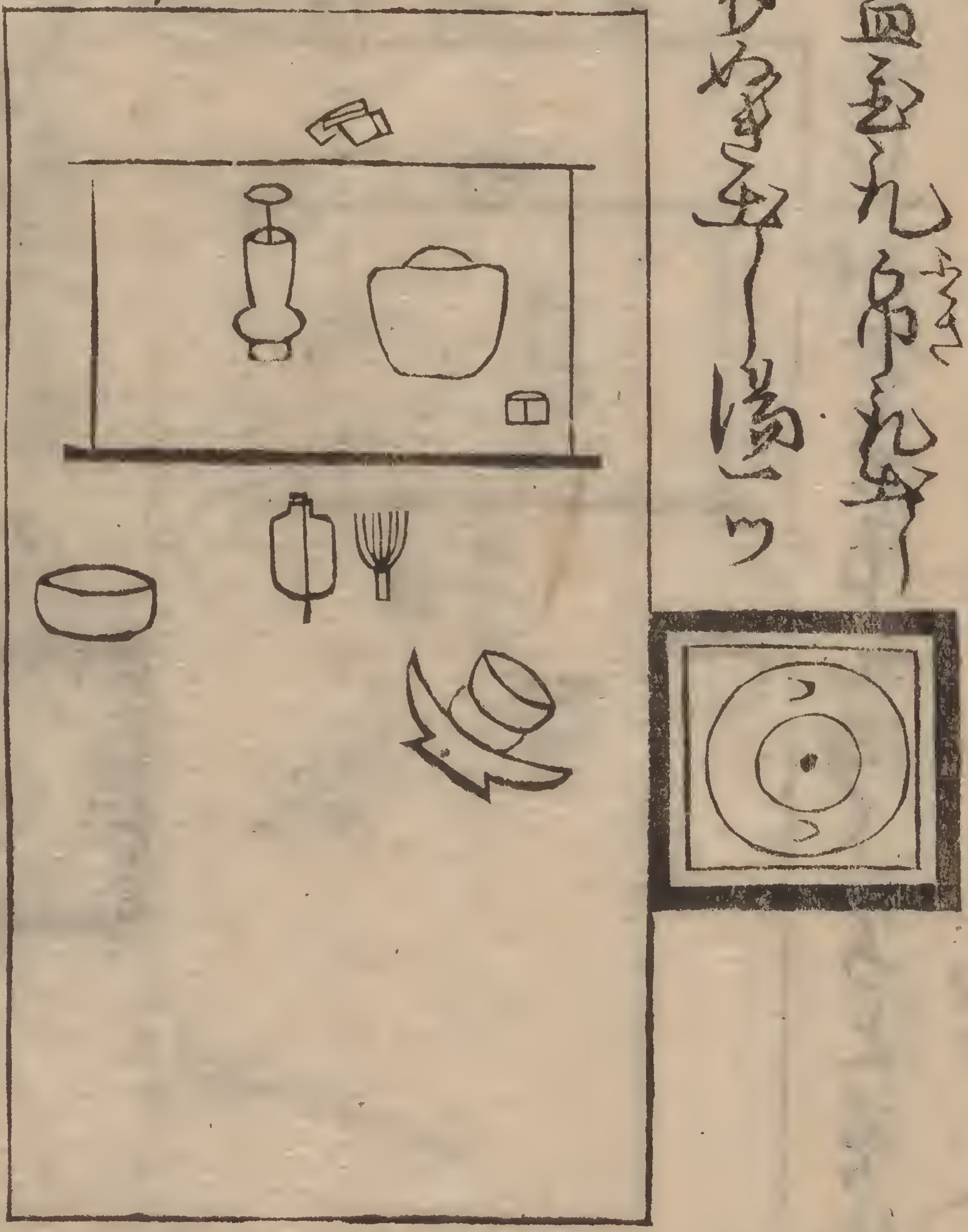
一 此ほかの荘りハ此としるし臺子の時の此ほかの依法おく二間也
はかし左の方此臺子に此ほかの荘也

炉臺子并荘臺天目の事

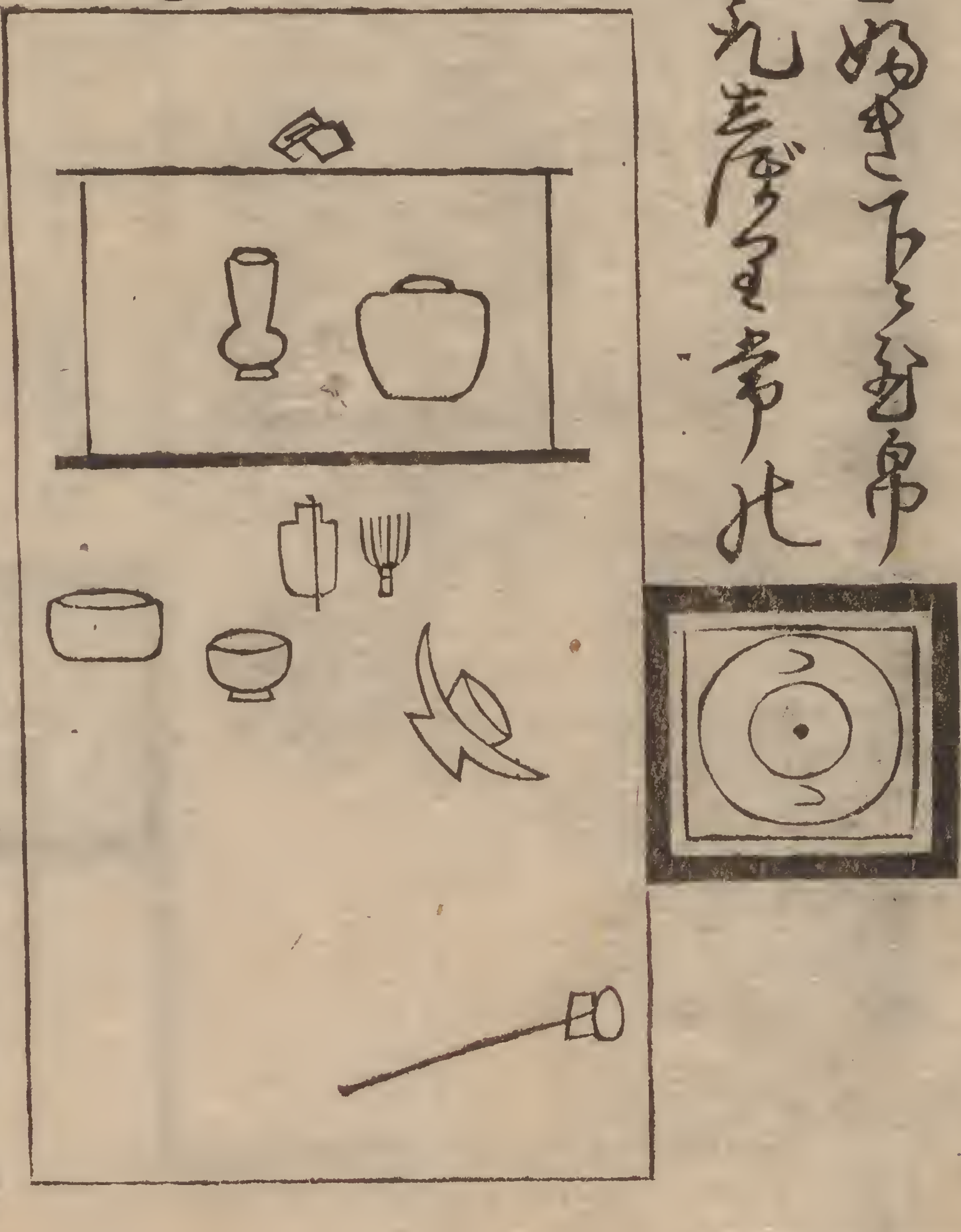
此ハお荘りを如く此くらし茶入ト
二具組ニする事も何とも茶を持て
済すニする之帛
を先出し茶入分
服に台天目を
其して杓をしいれて
座し水盥下ろし
言あるもいふ事なりて其へ時分に迄ひ杓をし臺天目の出し
座し茶入を飾りして天井上帛さばきして茶入の
上巾ひ置此くて荘り茶の巾ひりけ茶碗の出し荘



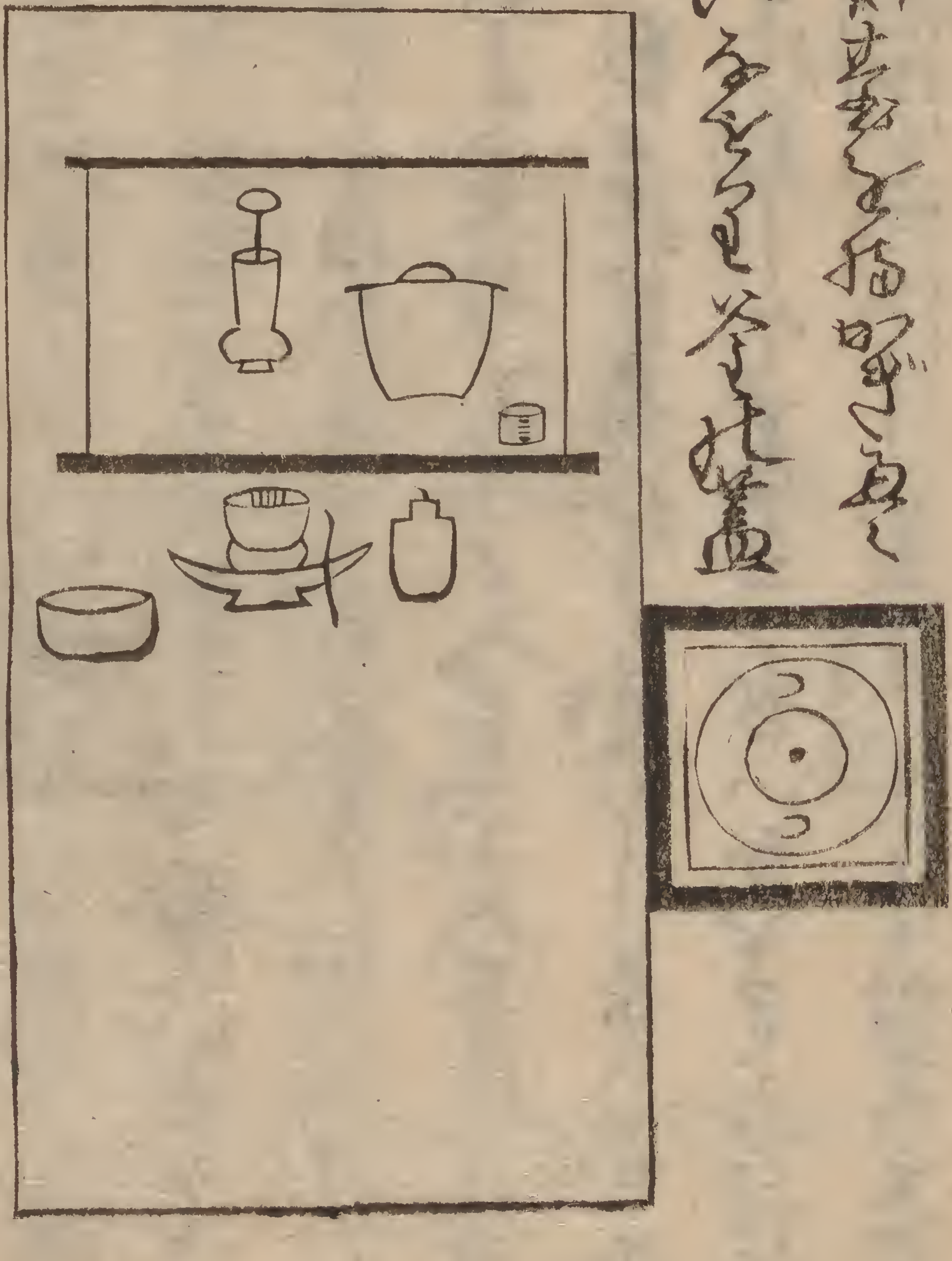
帛巾にして天井を巾ひ帛拂をして茶巾の問ひ取
何とも常此拭くさ茶巾とりて天目へ茶杓
と台の隣の盞臺の帛拂し
釜の蓋の揃ゆ座して湯一杓
汲みくへ入れて置く
茶さらけ杓置く
天目の中にし湯
まハしすて茶
入れ又湯一杓又
柄杓釜へ置き座の
釜の蓋の此蓋すりびて蓋置に置き茶
釜の天目へ入れ杓にし中へ入茶筅湯を三回して膝に



引ちかへ帛紗を出し二つ折て蓋を左に中へ入よりて
置分ぬきに羽をぬき下に置帛
紗にてはききん茶巾を茶碗に入常のこ
とくふきて棚
の上天目の湯ぬ
ごいして茶碗を上
ほうに置きて茶筅を下に置
茶巾を湯にすすぎて
絞り巾は中へ入せ置しまい上茶碗の
茶入の茶を入而茶へ茶碗は天目の中にしまい又
ぬぐひ茶をも口に湯を入天目の中へ入て湯を



釜を廣げ茶入をうけて茶巾蓋の湯を入
茶碗を湯ぬぐひ茶を入置茶筅を取て天目出し茶を
八天目を揃置茶を取て置き
のまんなかにしおいて茶を置茶を蓋
しまいて揃
立て置き
上を置き右を
向ひて帰り
さげて出し
又茶入を蓋置の出し茶巾を茶の蓋置の水指の
蓋を揃ぬき出し次を一ひとつ茶をいる茶

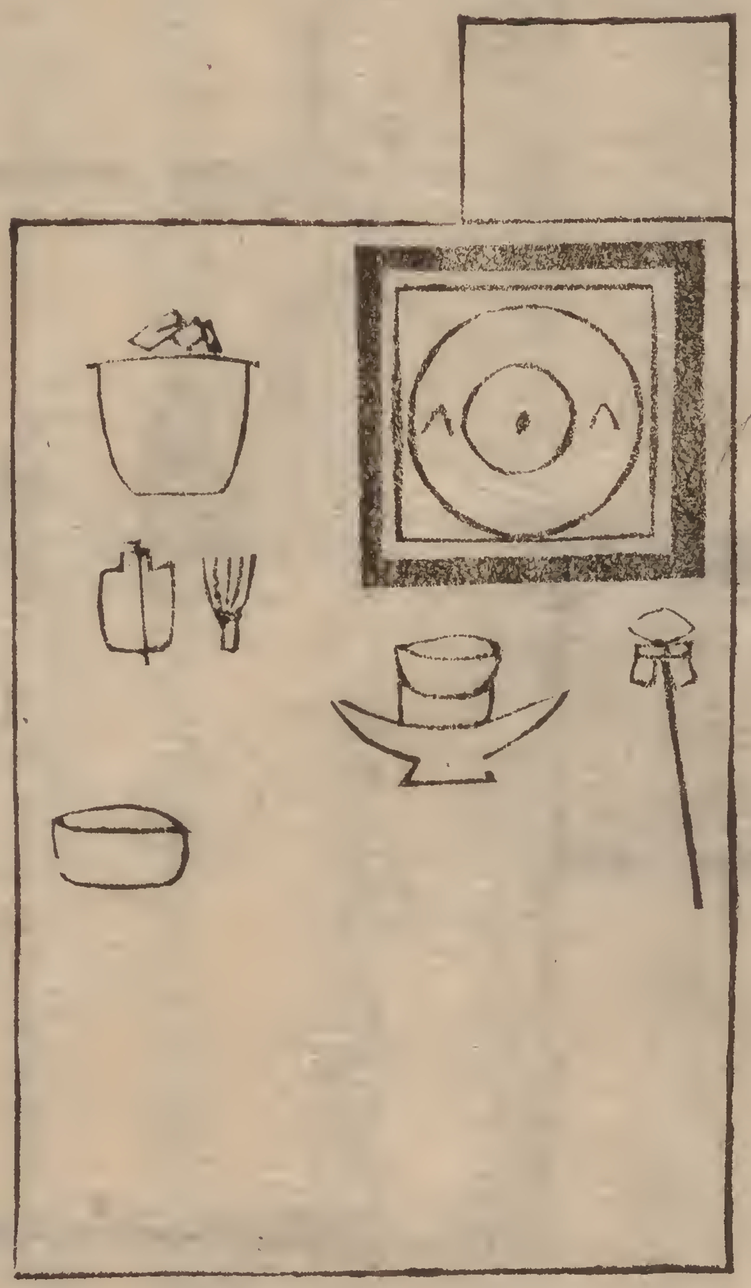


同なと餝りて先臺を下ニ置天目の左の方ニ茶巾
扨湯を入又右の方ニ捨て又下ニ置湯を入水ニて又
釜蓋の天目ニ入右の方ニして勝手ニ置茶巾の出し
臺ニ巾ひ天目引上ニ而し茶筅ニて如く上下ニ置
湯を捨能く茶巾ニし巾ひ臺ニ置茶巾の上ニ置ほどに
右ニして能く天目ニ右の方ニ入茶入茶杓の巾ひ
臺の物ニ移し右を此け扇の如く遣し茶入ニ右の扱
の水さし釜の蓋して蓋置ニ置ハ右を水指の蓋
してひかへの物ニ移ニ付し蓋置柄ハ上ニ付け茶入に
先ニ常の如くいらひ出し其もと常ニ如く成し候

三つ具足大右臺ハ茶天目台の事

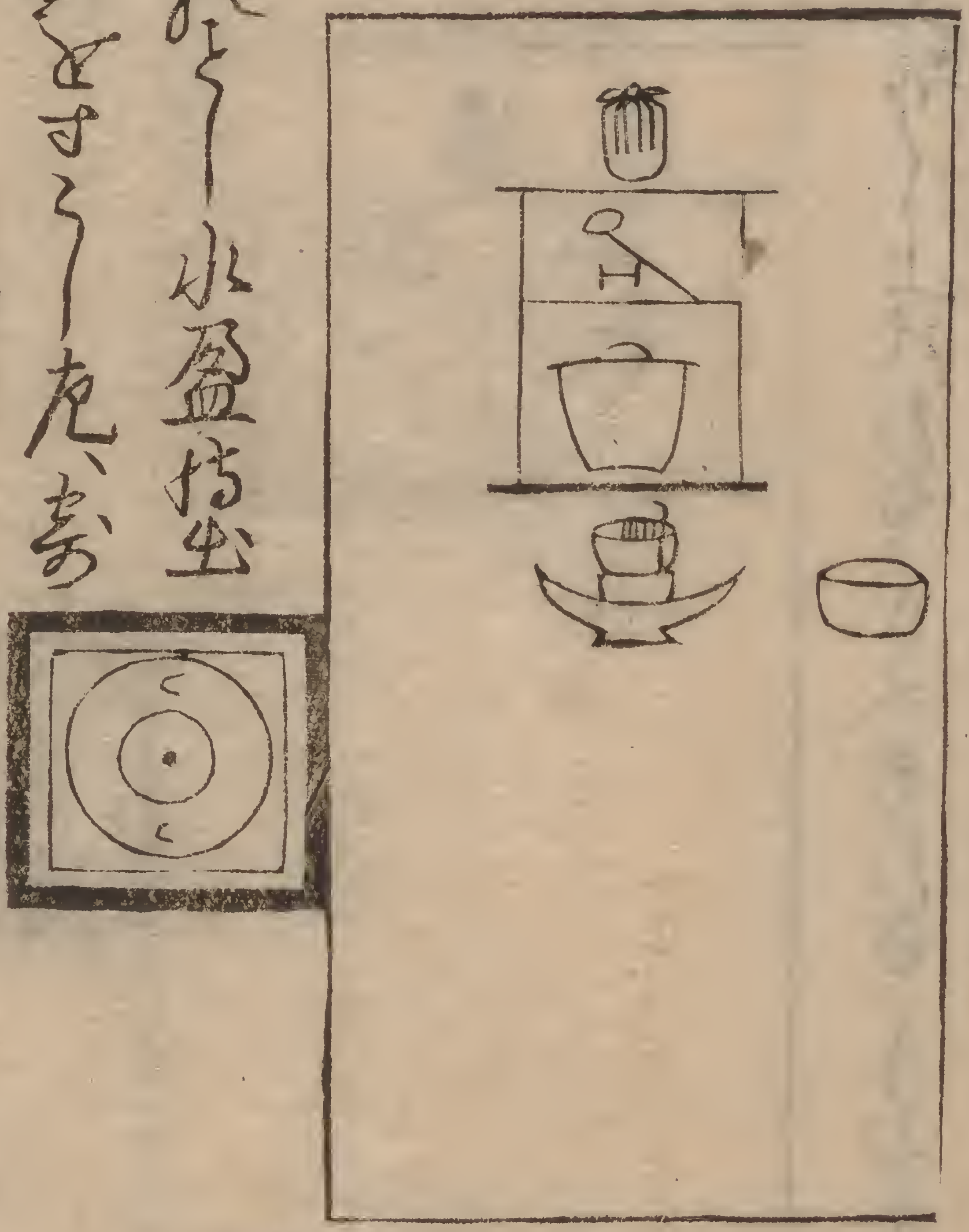
此台の花を生ル也しらし臺物ハ
飾り記通り也此臺物ニて
此ま々の通り二つ共ニ大様也心得候一事を口傳

一 角手出炉 台天目之事



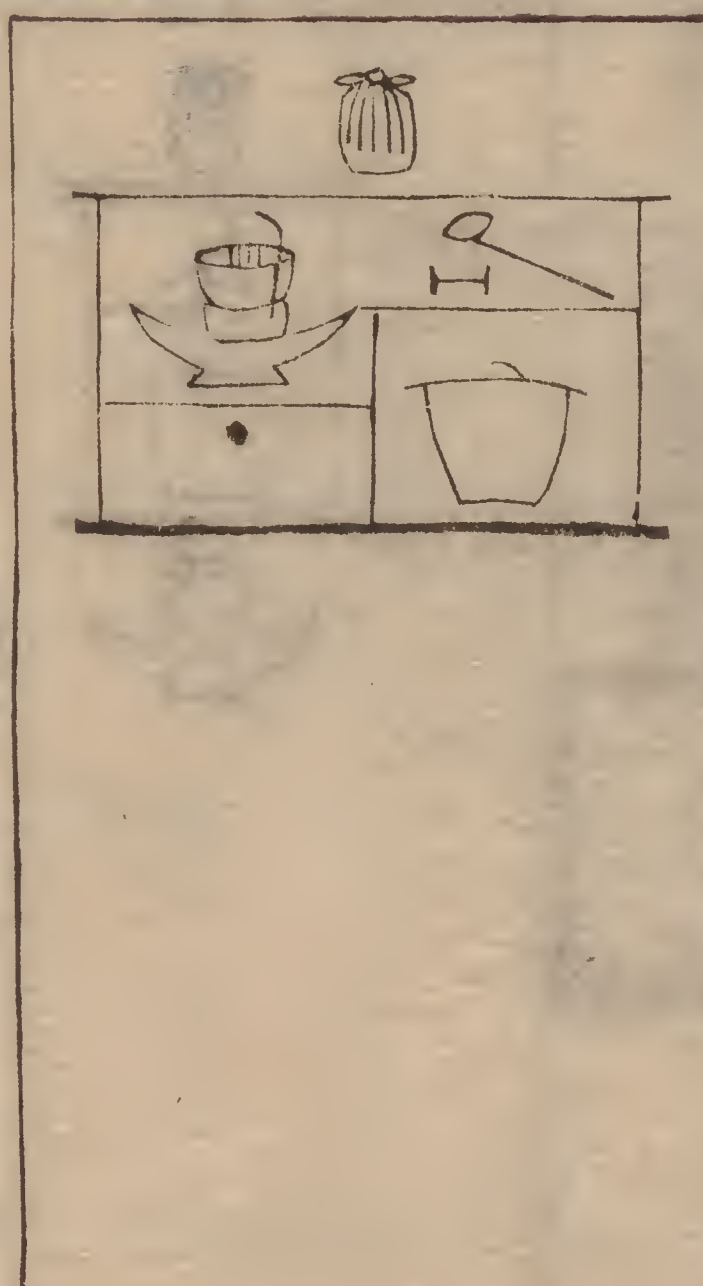
一 此時の台天目の點様台をのせて天井ニ一
角ノ半の火點前ニ置 右脇ニ角炉出炉之の
出炉角炉共ニ同し ニ手からニ此時も火點也

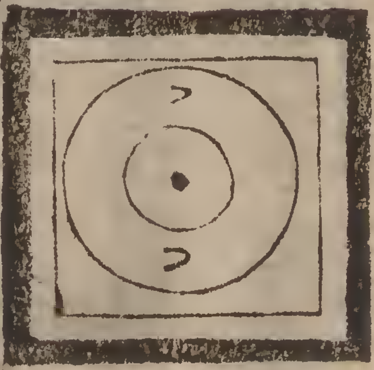
一 柄杓柄右脇ニ台天目之事



一 此時の荘りハ以て水盈指出
前比とく台茶碗をすゑ左ハ台
柄杓上ニ茶入を置 右肩衝を置きてそれ〳〵此點様
之通之事 柄杓のさし此時も同じ

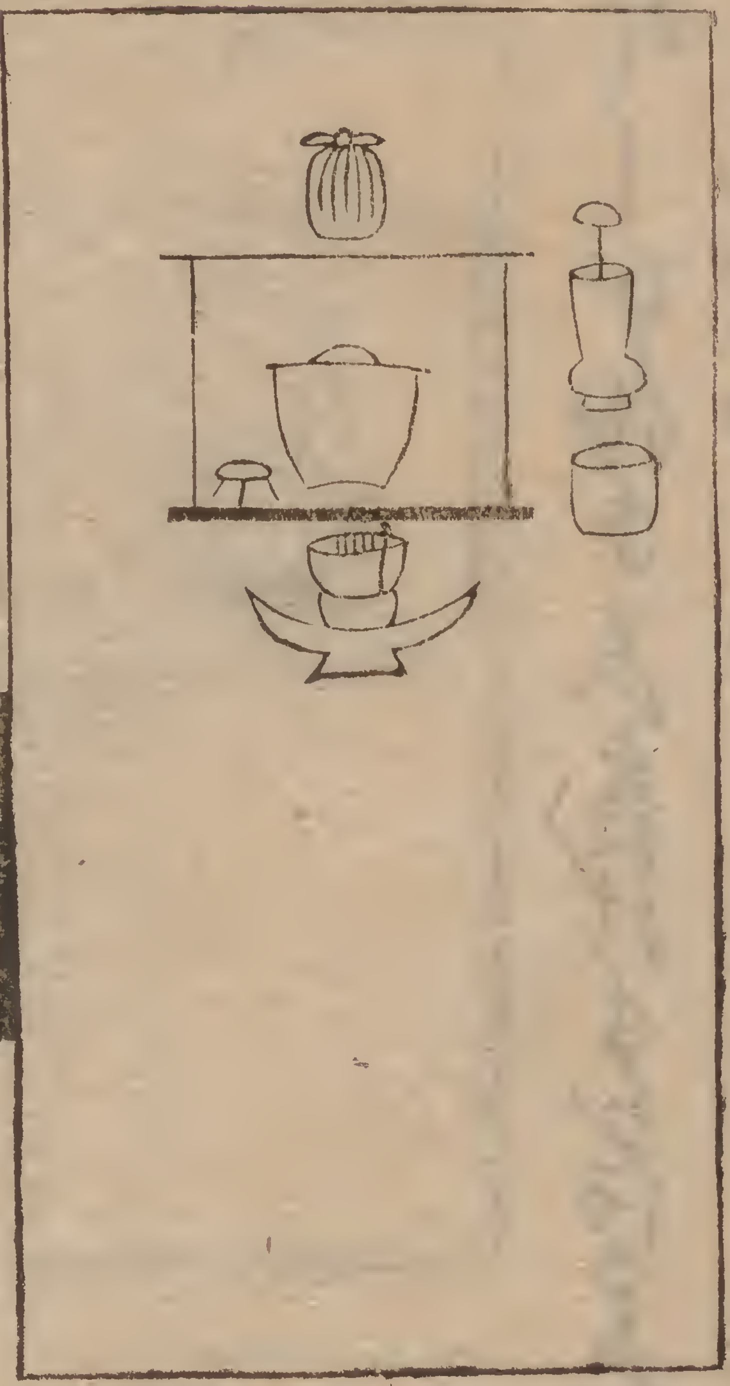
袋棚并掛子ニ臺天目花事





一 茶入ハかさり置め袋し上花入ハ左ニて又茶碗ハ左ニて置ニ荘
事ノ仕置點様ハ常ノ通也右掛子ニて 茶入ハ置

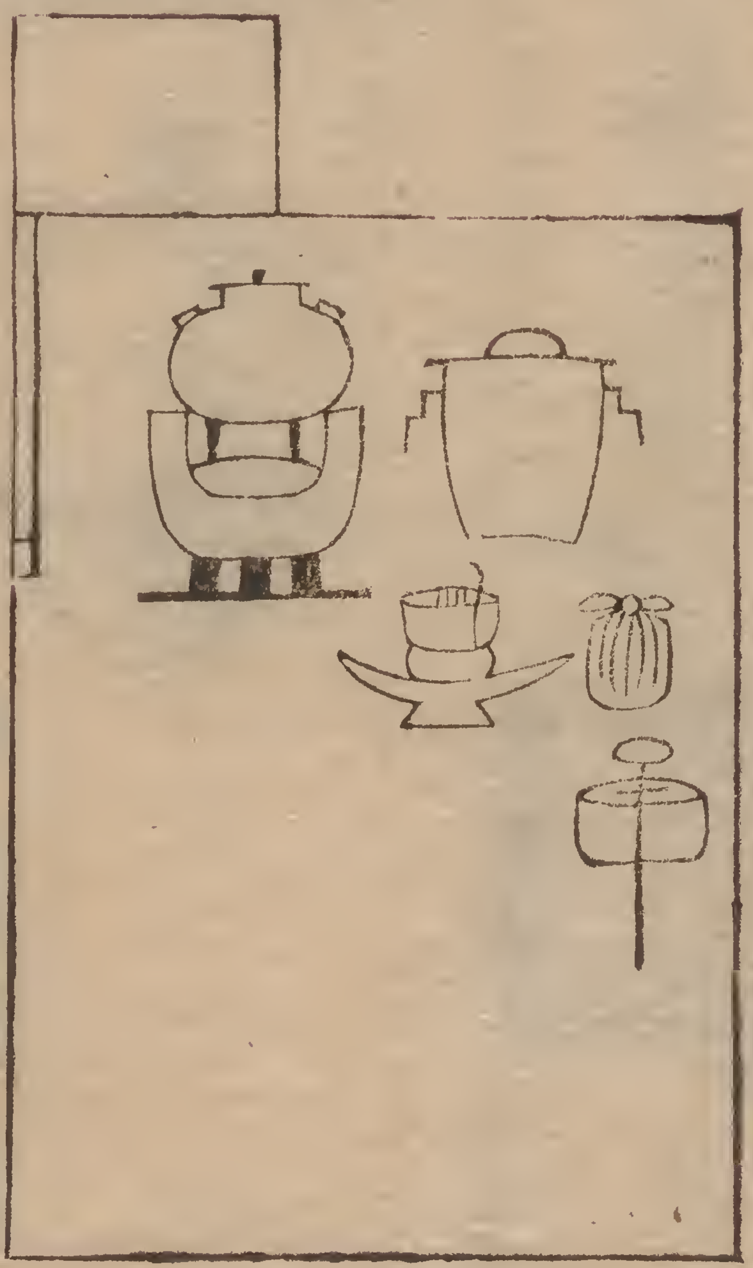
小体臺子臺天目の事



一 茶入荘り之花臺天目棚ニ置
並茶入下ニ茶碗ハ置二ツ置ニ
茶碗ハ置花印置そ之茶入ニ水盈茶碗ハ下ニ置又
但さしおき候點様ハ此通之口傳

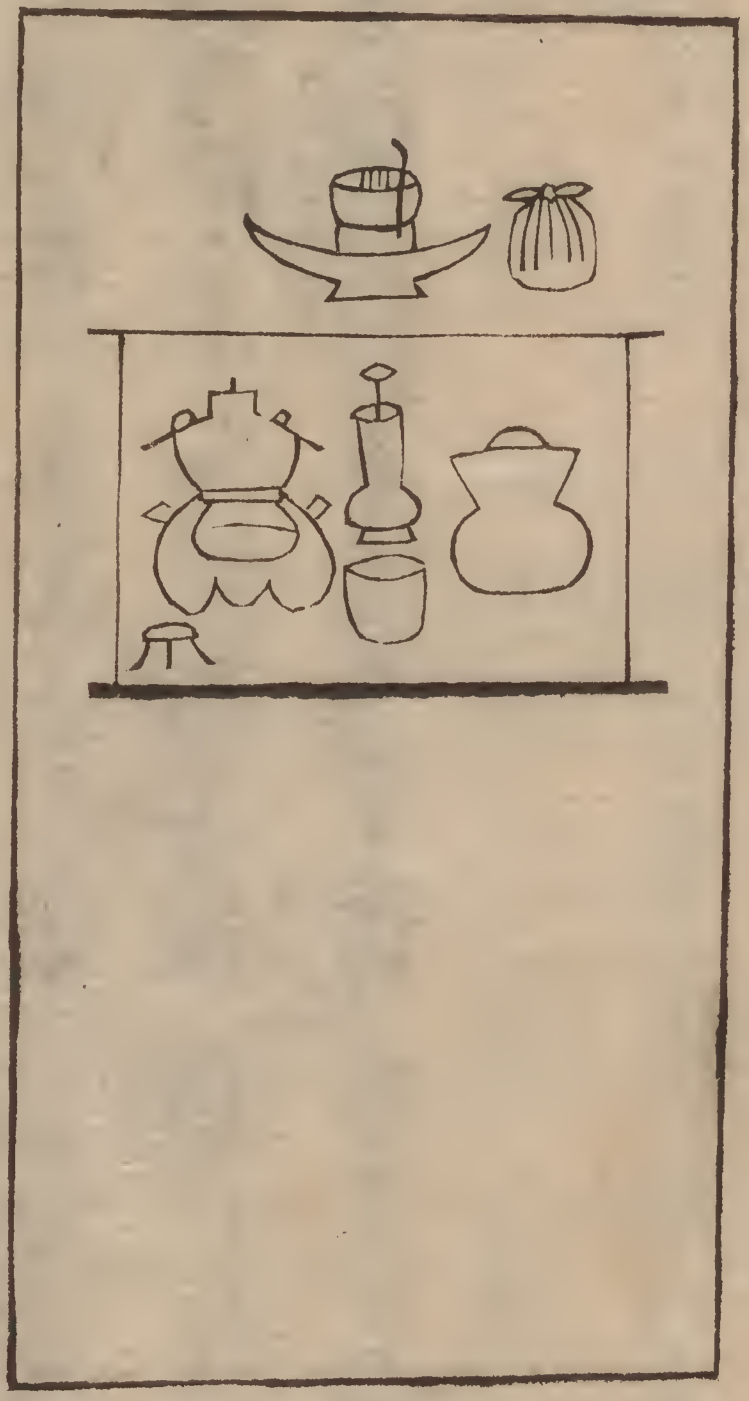
風炉台子ニ臺天目飾ル事

一 此はお荘りと同し 中脇ニ臺天目飾ル時は ところのごとく居て [illegible] 也 [illegible]
[illegible] 也 右の方ニ [illegible] 也



臺子ニ臺天目乃事

一 此はお先帛脇より右へ出し中脇ニして臺天目を
扨置し 左の方茶入扨出し 何事(?)も [illegible] 水指八(ハ) [illegible] 也
お代(?)通之左の尾ニ 此は [illegible]



一然して茶入天目ハ貴人高位の人か又ハ名物拝請
此時か又ハ親祖又ハ師匠ニさつかりて點一服まゐらせ之
常ハせちろまゐる客をもてなすハ此等一二の事ま
人ありとも門成付ハ床の飾り置事ハ一ヶ月ハ必定
さりとて茶入天目此などく数寄屋囲ハ床の間ハ
床の飾し置敬ひ此を一ツに置也故此ゆへ床へ入
置也

一 釣瓶之水指之事
一 壺長緒之作袋之事
一 手縮茶入進言答之事
一 油桶茶入進言答之事
一 筒茶碗之手前之事
一 合子之物習之事
一 論議之手前之事
一 佛天目薄茶会釈之事
一 野懸盆點之習之事
一 真之手前水指之事
一 棗包紙之手前之事
一 水滴茶入進言答之事
一 弦付茶入会釈之事
一 茶筌入之習之事
一 重茶碗之習之事
一 冶良點三服之習之事
一 台天目茶碗三服點之習
一 二ツ茶入之習之事
右十八ヶ条ハ茶入茶子之大事當流之秘傳故ニ暑
ヲ略ス御望之方ニハ板本ヘ拙子有家御尋可被下

一歳ト申ニ御座候六才ゟ相傳ニ仕者也其之まゝお
真之草子之事者世ニ知人無故目録ヲ以テ記ス

亭主振之巻

書状調様之事

来ル十五日之晩御茶を差上候ハお待居候
御来駕下されく候様奉存候

十月十日

十月

一 書状と書とハ文字ニかなと書文字のまかと云事も有
尾ニ依文字あるよし

一 筆啓上ハ此状ヲ以テ筆先人ニ依テ之
一 [illegible]
右[illegible]大秘事なれ共[illegible]
一 御目出度お喜状

雖及くともおもむきおろそかなるは一の過人と申すべし
ある者も上座の者まへる時はすまし又客の方へ向ニ
来りたる又は座を越してお客は能く一の器物を見合お若中
の亭主や又は常ニお茶合も見き気又は遠国一の家の
事之又人ニ依て茶の道ニ名ある者人の見る時は亭主
にも客の付候は懸ニ尼よりすりする事不ニ依て之
貴人の御とも勝手の時は身一ニ分の入念之気者く方
能お客分とする人の事とはたよひ常くちとく
すべし見せお役の身一之すへし役口傳
掛様次第の事
一 すへかけしすべし炉ニ而湯入茶を能仕合て出すべし

一 同りニ茶挽すへし急ニ挽ハら香して悪し故ニゆるゆると
おニ挽へし一同りニ茶入袋ひ能干て茶を入日前
茶を入茶巾茶筅湯くみる其外道具出之
悪香なき様ニ掛置也
一 炭継合て出す炭丸ニ割炭を論
細炭点丸白炭ニ入る
一 炉の灰拾ひすまし葉とも拾ひ置へし
一 十五の火ニ成る迄すべし同前ニ炭丸火鏡
入念の道具帯ハ羽箒香合之八掛ニ荘る
一 同時ニ茶を仕廻すへし同時炭斗一ニ並ニ灰入
せんかた灰丸入土鍋ニ灰入出す灰掛すへし

帨巾袱紗掛て羽帚は添置用時片口に水七分め程
入上に蓋を置帨は添置也

一 皿に盛砂の剥炭を掃除て能大なる火鉢へ入上に白き
灰をかけ置後の出す時花を生る時に火を持出る
挿すべし此の花葉を能き葉などに此れ付る
を能見計ひ先掃除をし有りまし立て置べし座敷
へしよろ長き花鋏等する也此切替の花器を
掛置べし

一 九ツに迎花生は出し帨巾は置花を生時分に
花を上る事を入ままし掛置を中に二の盆に
ハいとする能揃着物を入ぬ急此時ハ必延

一 九ツより装束すまし爪髪などに心を付掛て拂いたし座敷に水
一通りちり掃除し香合羽箒備一もの皆にて水
を打て一花に水打落板床に置べし
一 九ツ過に花生出し落板に花器に花器を掛置
花生る下火炉に入釜に湯八分め程にて
釜を掛一篇も置て炭の如くして蹲踞に水
手きて掛き置べし

一 掛て花生理とも床敷掛置心よりも広く宜く
ひろ時本床に掛と掛もとも戸を開何して今日
の生花の亭主の座敷の所に有此明る客は露路済是
へ入と客は開にて此ほりたて茶計など出すべし

かけ此入頬明けて炉へ入之まゝ暖(だんく)に入を茶道口(さどうぐち)
しめ又之釜ゟ灰土鍋へ入まて灰付ゟ時羽箒にしき
茶碗台此戸明おくとて礼をすゟ梅時此蓋置として
又持手入帛(ふくさ)揚にちさく奉紙懐(ふところ)へ入炭入掛出来
鐶入跡(あと)戸(ど)をしめ炭(すみ)する也

一 片口元に揚手へ立ゟるよし口清
一 炭仕舞(しまい)揚手へ立様に料理請(うけ)て持手次第に一室と云
　惣して茶具炭此道具揃候此支

床　掛物　花生　無籠　薄板　花籠　花切　手巾　ちさく　水次

炭取　釜　あげ　割すみ　暖　湯すく白炭　香箱　羽箒　鐶　火箸　土鍋　灰抜

片口　蓋置　釜敷　奉紙　帛巾　土田　坐どこ

茶具　水指　茶入袋　茶碗　茶巾　茶筌　茶杓　水盈　蓋置　柄杓

帛巾　持手羽箒

家具　皿鉢　湯盆　水次　湯つぎ

たばこ盆　たばこ入　火入　きせる　灰吹

右品書付て揚手に張付て置時失念なし　惣て
茶時は急之客来此時ありては之無故失念なき様に
たしなむ也

一 通ひの次第の事
火焼口より亭主引膳を持出る 亭主二組にして
上に香の物下に食まで又呼の時に数入持出上座の方
へ出すなり扨は膳を持出る也食桶持出る也 亭主は
自服通ひする也又小坊主なと茶堂に通ひする度
もする事客によるべし 酒をおもき客の時は亭主持参を
世間には亭主も食スへし 酒済て湯盆に湯次にして入
乗持出て亭主客の九つき飲く下向に膳とれ湯済て揺
上て戸立たけある口湯通ひ付茶菓子持出亭主一礼
勝手へひしとたて亭主之客ハ名残とんて立なり
一 料理ハ熱くして冷るは又は後に残り物料理にまはる

色
一 茶の湯料理の事ハ酒ひてさし又ハ鱠指身木之一汁三
菜の料理など是ハ膳に酒ひて付亭主引肴に出す物中皿物
にても防たる也膳の内脇なる所を付る事とはなし
一 酒もりての時ハなるまじく不つかる事肝心也
一 数寄屋の書ハ掛て内外氏に黒ゐなき也
一 けハ时の物れ合口才也大かた世間にたきなとけずる
人多し去料理方の人の口たきなの数ハ食にうけ
たるは椀の内もさき物と認し乞理に叶ハ
かまどを遣にひげのなきハ必遣毒なと称
八ゆうるなぎ遣にめの先りあるハ必遣毒なと称

一 ゆゑを遣て候呼ぎの熱湯を空に必食傷ス

荘の事

一 客外へ出ると花生の水を去道具ならべ花生を置
れ花を取てつりかけ物を巻掛炭をして湯ほと
よく八分目に汲を入掛ある釜へ入釜を焼し紙巾にて
釜を拭ひ掛物荘茶入をひらく荘ぬぐひ嗅鐶
火箸・合羽をはづし其手すり板すに座敷の内へ入
れをおしよく茶道口に居て入を中也焼巾縫にし
さし羽帚をしてきて戸を開出る也

一 三の口伝と云習あり

一 茶碗杓子盈置生荘り茶入れにお札入鉢

羽帚掛物大目の内にある内へ入手前置合せ並炉縁
と手前する口伝あり掛炭入掛出炭するにおのれ炭手前
と同じ炉段炭の香ある口伝有炭仕舞にて客の詰まで
時節の客遣てと有時ハ其外縁外付へ先に出
何方へ今日の所にあらく入くて仕舞ハ三盃く隠人の札
流也大名ハ此の心得に外素に記付する事へく

鎖の間の事

一 おれども其の立る事ハ極りたる茶の湯也大形ハ
後の為へ通して為茶碗へ菓子など出し為茶
立る又お人に依て後刀に茶菓子出し湯かへ出し
又流茶碗に事何ぞ尾張に依了

一 すきや茶入の時ハ持出ハ茶盆也茶入水盃ハ数寄
屋にも置ものと云餝也

一 錺の次第道具組の事

床　掛物　卓　香炉　ぎんてん

花瓶　硯　筆架　軸　墨

書院　筆ハすゝきの如くに立る文の次也

脇ニ油之物並ニ置又ハ書物　文法

食籠門テ菓子入

棚　茶巾かけ置事も有

硯　料紙　盞

書物とも置事も有

小板　茶入　かうばん　水指　蓋置

茶碗　茶杓　茶巾　茶筅　ひしやく　水盃

御成之次第之事

一 主人御成之時ハ前日分にすゝじ木子外道具丸出し
懸香を掛に掛置南中ニ至て右の如く莊置置候
迄ニ置候道具を御時分能申上れハおもとに
奉上する也床を係りて思残もなく又ハ追付一宗
為入り見ハ一の茶面に御出時ハ見ヘ自然ニ人々付候
御成の前に聞道と二三町ニ迎ニ参り時ハ何も露地口に
戸を夜陰子の戸も皆開置之数寄屋へ亭主入下に
お伴も入御待定て茶立口の戸をおもて座敷
ひらきて戸を明大日一立て諸御礼申上其上時に
人御亭主と上座時の心得一分と立て時にハ少く

禮之詞請手へ入抔ヶ尽ㇾを掛出すと客之亭主ハ位
を正しござるとみへく候とぞ申ぞ善し挨拶口を開き
戸を二に當御膳掛出る是ハ多くハ亭主此役也
又ハ御小性ニ通する事もありける損と退付茶
菓子指出上ル中立と庭と御後を見き釜其又ハ座ニ
飾物かゝる也盆點ヶ茶天目ヶ台茶碗ニするぬ也
其外菓子口上此もの、とすゝむる事御手水鉢と
御退出御入庭履ニ下ル是ハ申上る薄数寄屋、
客入下り座定て釜口をきかしと明下座へ
向ひ口踏口待ち茶と點前中入するもの是ニ罷
あるを又出點済て請手へおゝ退出之鎖此回へ

然爲入候ニ中上る鎖之間御せと参らず何くしても濃茶
菓子出しゝ而るを揚てから水こ立ち庭と御通
たまき又濃茶上ル數寄屋盆點此時ハ爲ハ其色天
目也又すくニ薄茶でも上る事もあるよし其時
もあるも後とも喰でしゝ座敷と庭と御へ出御禮や
上退付御礼へ御禮よ上る也

一 主人并通御坐時ハ花ヶ炭ヶに座ニ出座候て
退出さんも上る花の時ハ花飾常此通ニ御挨拶
座ニ出之又炭此時ハ新炭入す二枚ふを炭てき上
ま炭なくて一掛持出座ですもおく答を上る其文も
何も前尾ニ依顔て一花も炭も御挨拶氣之時宜

一　まよびあつしんずる物なりとも寺社伺ひて御暇申上ル

一　御座敷なる次ぎの間目通りに多葉粉盆茶碗をもって縁側に差出し縁付らくに茶道ハ茶を點て差上る模様立に次第就き立出る先に申あるべし

一　腰物掛一腰ツけにして御座敷の床脇に差之す法也

一　手拭掛を前座ずる上に青竹なとに包みして手巾ハ前すしいかほどなり

一　御目見済ませし又御げさまとあるべし

一　数寄屋ニ[illegible]大名

一　焼口の[illegible]ためし

一　御成の手水鉢ハ宮所のある之

一　御料理方の儀甚だ以て慎みあって不時の物又数寄其の物とハ醫師と談合して少しも不遣物也
家来肴ニ御茶も下時の事

一　家来ニ念入る事也上ハとる迄羽の肴にくらべまで連ニ出しらぬ也何れ數寄屋へ入とならぬ御言葉もなきに遣付ツ炭もならぬ也湯と香合出し入置まで盛付料理ある通ハ小坊主ケ子小姓之食過て茶菓子出る所ハ中立とする茶具常の通荘鏡ハ喚鐘を打て何れも入下掛るべからずまて道入あれ主人口傳時刻まで[illegible]付也茶入ハ[illegible]入らぬ茶入ハ道羽の茶袋れ

出る事なく隙間より上立てすもしけれハ文鎮一ッ入れ置べし
しけれハ敷居ニ置べし

貴人應答の事

一 高位の客ハ蓋置を室して客の時ハ敷居を釈也
一 茶を入懐と釈又ハ高位ニも不釈下輩ニも不釈同
事ニハ釈也此心ハ上と下ハ変の心工夫一つの事也

水指扱の事

一 中立の時に水さし立出す時ハ食過湯の時の飯の
建水指時ハ濃茶却て置べくあり時分よし
一 寒天の露地の水指扱ハ壁ニ付ス風炉の時ハ
水指扱ハ壁へ付かるべし

一 寒天の時分路数寄の時ハ七ツ時前より時分
まで石段する迄掃除ニ念を入水ハ不残待合隠
一 此戸たにハ水指之客入時ハ手水鉢ニハ水入べし
一 同路数寄ニ水指など釈一説有べし中立ニ総替るべし
一 露地上の石ハ客ニ水指客の入下宗有べし
一 夏すぎ過ニハいつ迄もあつてぞ小しなるべし上り
此上の釜よハ不水指有べし
一 路地の茶事ニ水指也石段ニも飛石ニも水の
たまりところ不よハ茶事ニ用心きこし出ととききするもの
たまる時ハ茶事廃ニ付故有べし

手水鉢柄杓扱之事

一 唐の焼物の手水鉢の時ハひゞくの座のとる也
鞠遊て置く也
一 桶の時ハうつむけて置く也　石の時ハ横にして置也
一 寒天の時分ハ手水鉢ハ所口に湯を入て手水鉢
の上ハ板ハ打て手水の石に置也　切石にして水門の下を窟
屈る有是ハ冬天の時分手水の湯を所口へ入
る中へ入置為にする也

石燈籠之事

一 灯ハかけと障子と石置　常の土器
置て下皿かけ　燈台五寸　文ハ七寸
一 月には七寸より九寸まで入置之子細ハ照明にすへ

きたなき也

路地ゆんそうの事

一 垣所ハ右の方へかけのおのれと有也に角かけて置く
惣体ハ掛かけに縁に置く也
一 掛かけとハ数寄屋之の道の作の事有所に石をたるく
こんび石の脇に伏せ上に行灯を置也又夜ル之又紙道の事有
所に来る十文字を入て其上に行灯置事有是尾人茂之

すゞしれ掛の事

一 数寄屋に障子にすゞしるといふる掛置立して
竹の時すゞしれ之て竹輪を立て時分置て時
すゞしれと云すゞしれ九寸四方之子細ハ外に古めの

刀脇指のある由へニ依て気つかひなく御置べし
一 翁あるよ大の有る方ハ風炉先之方へ寄て明かり障子迄
不時の客之事
一 露地ハ常も掃除すべし二先時 入候茶点
手間ニ掃除させ中立之後亭主迎人ハ手水鉢
の所迄掃除させて善し
一 手付のあるニ秘蔵の道具有る時ハ荘り置べし
一 月あり客に出し候も大事合なる道具あらハ揃ふ也
入水指を清めて茶をひかへ也指出べし
一 客を一の当ヘ呼時ハ炭する釜をかけ茶を出すべし
囲炉裏風炉掘の事

一 いろり開の初ハ九月朔日より三月晦日まで
風炉之初ハ四月朔日より八月晦日まで
囲炉裏縁之事
一 本縁ハ正月朔日より二月晦日まで縁ハ四切より
極月晦日まで
荘りの事
一 床ニ道具二種の時ハ棚ニ二種床ニ二種の時ハ棚ニ二種
置く也 但茶入ハ荘の内へ入置棚の時如此口伝
隠人亭主振の事
一 度々中へ入る客ニハ給仕物の後と思て出ひに
花の事ハ入て茶の時ハ床ハ花も床へ

菓子撥揃の事

一 客の方へ出す菓子ニ朝飯昼飯夕飯後 晩食後 暇次第ニ茶
の水と一の出す事ハ追付炭として茶菓子出し湯
出し茶出すへし

刀脇指口伝之事

一 数寄屋分土ニあらハ其方へつきしろ迄其夜の西
ともに其方文も何之共時ハ客の土ニ間のりう紙燭
よび入する事ニて是ハ手前ニ御挨拶をれて来る
と云付る也

續口切之事

一 口切を済てすり付ハ茶道具取し揃事なし

釜の蓋つまミの事

一 釜の半ニ釜ハ大の時ハ出物の面とあの方へ
茶巾ハ数寄屋ハ先の方へ向へ出すへし

一 釜の半風炉ハ菓子ハ出物の面とおの方へ出すへし
茶をと同前

炉口撥の事

一 菱の方風炉の茶之湯ハ本に炉口口切あるへし
炉口なし

数寄屋巴板戸の事

一 何も窓に襖戸すてハ板戸の月見式ハ危なき
おこ火を隠せんこの為なし口伝

路地うらの掃除の事

一 掃除ハきは路地ニ松葉敷すへし松葉敷ニ石

際ハきは八寸のけて敷へし

一 手水鉢ハ向いくこくハ卑く植るか吉し

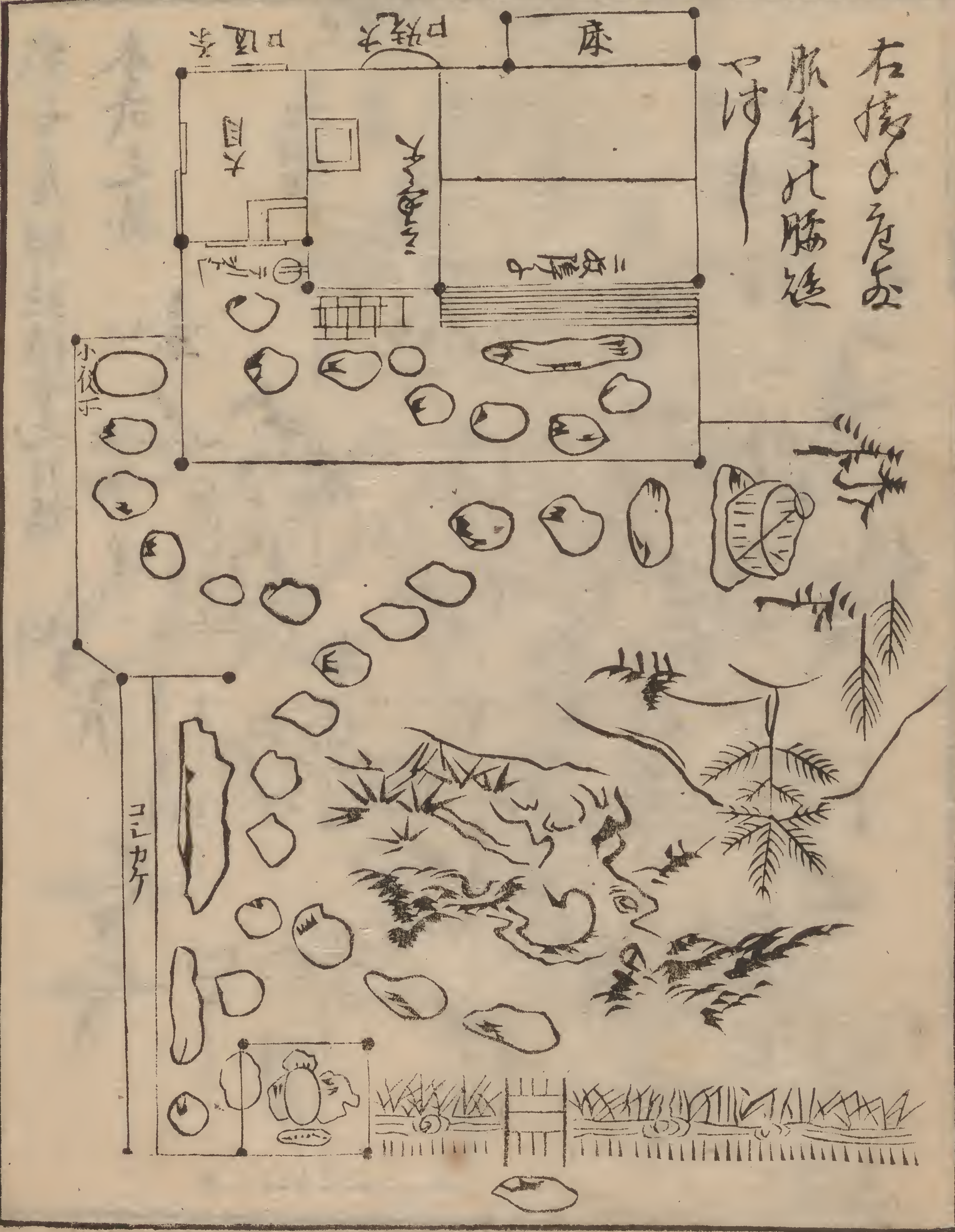
一 石燈籠ハ重而内路地ハ順外路地ハ逆ニ置順

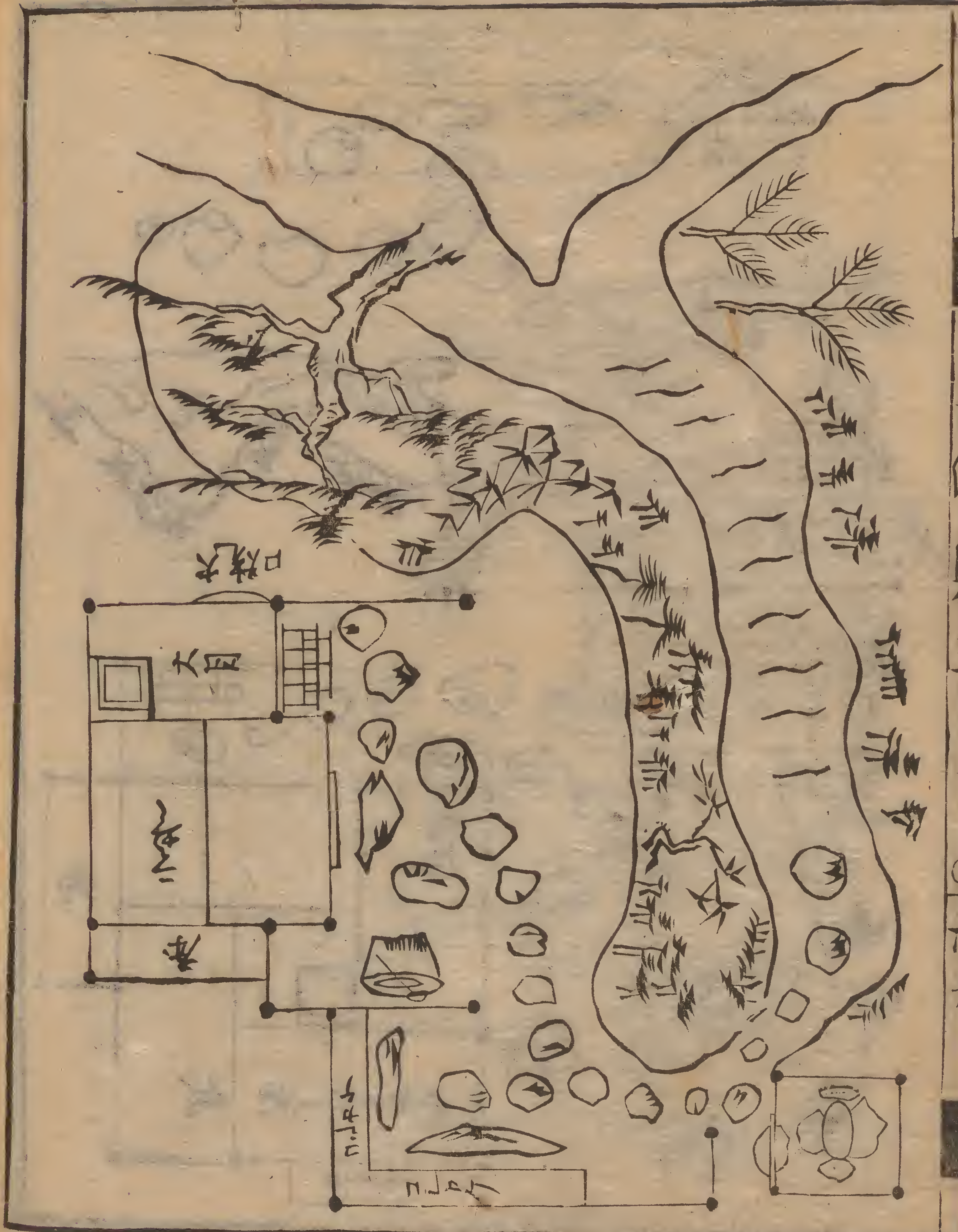
ハ燈の逆ハ其付るへき也

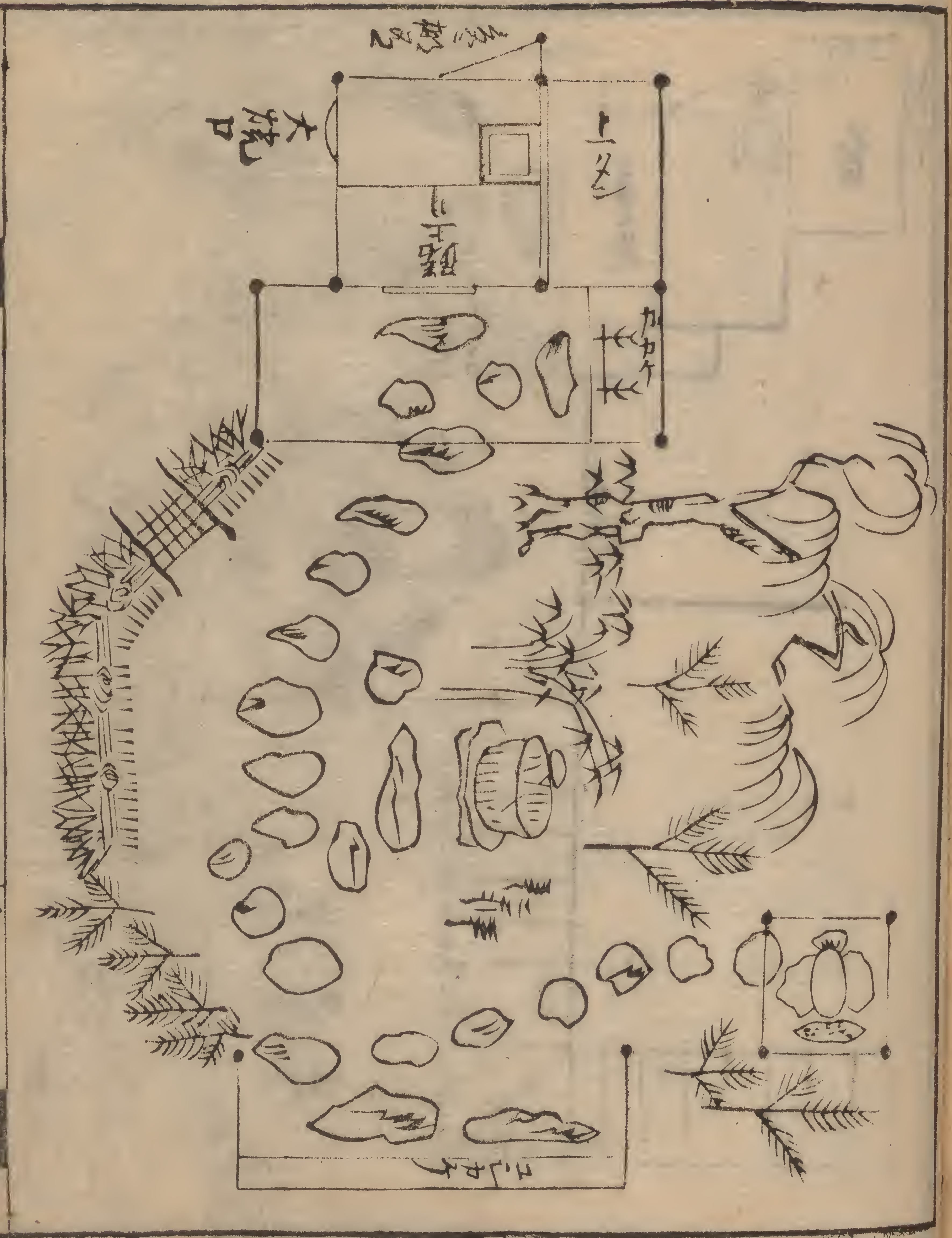
数寄屋腰掛待合之付様

本式之図

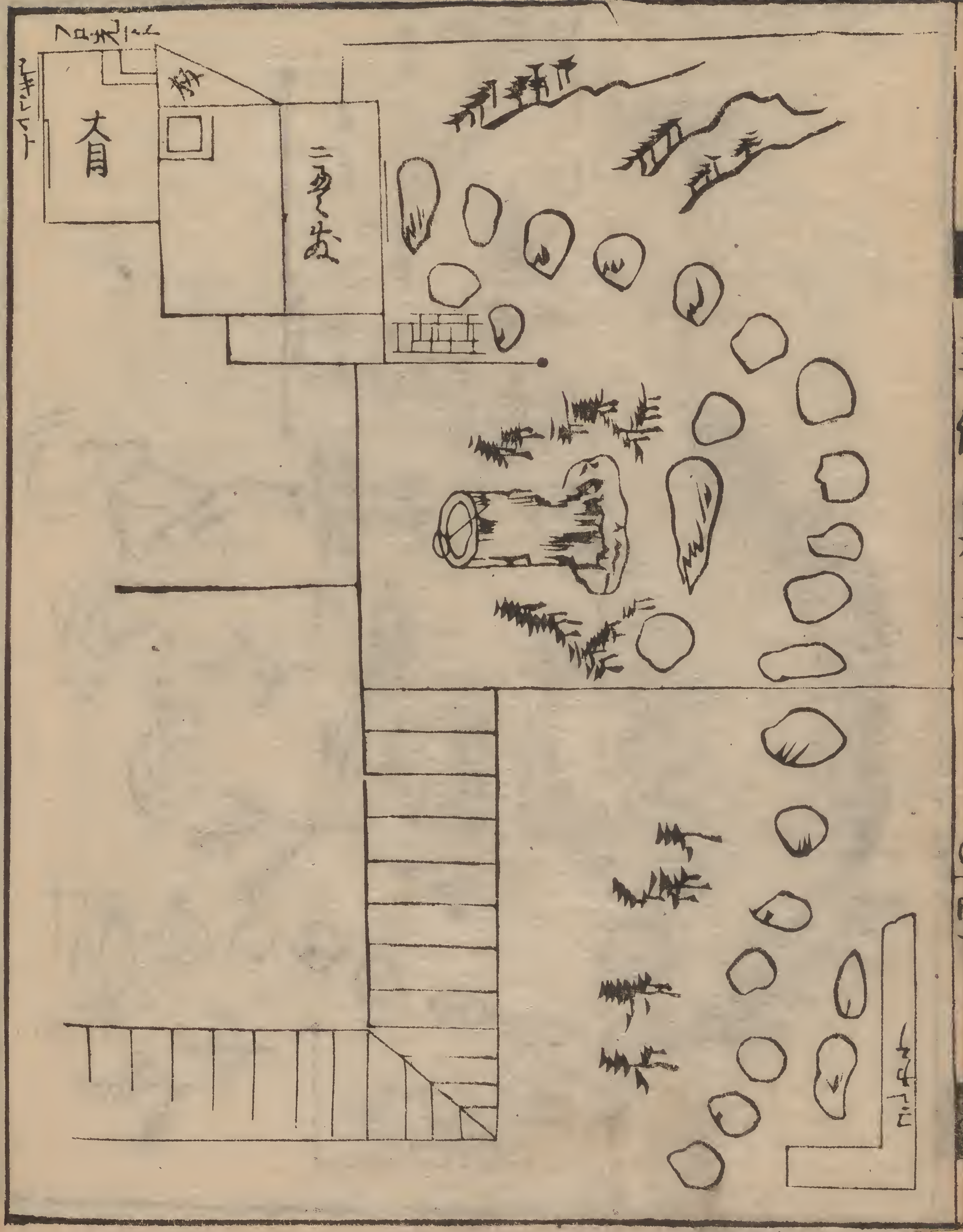
右様の庭ハ
取付れ勝徒
やすし

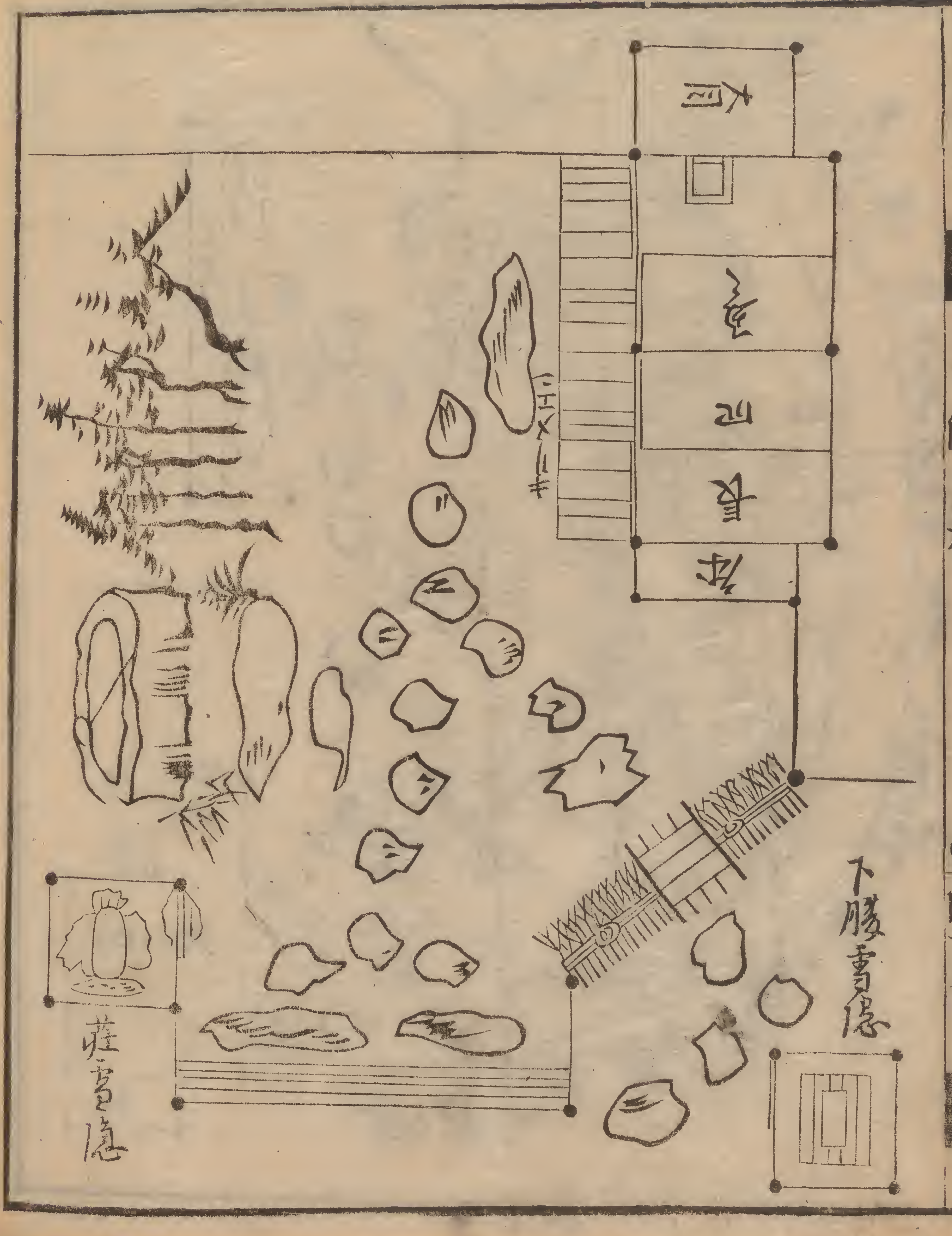


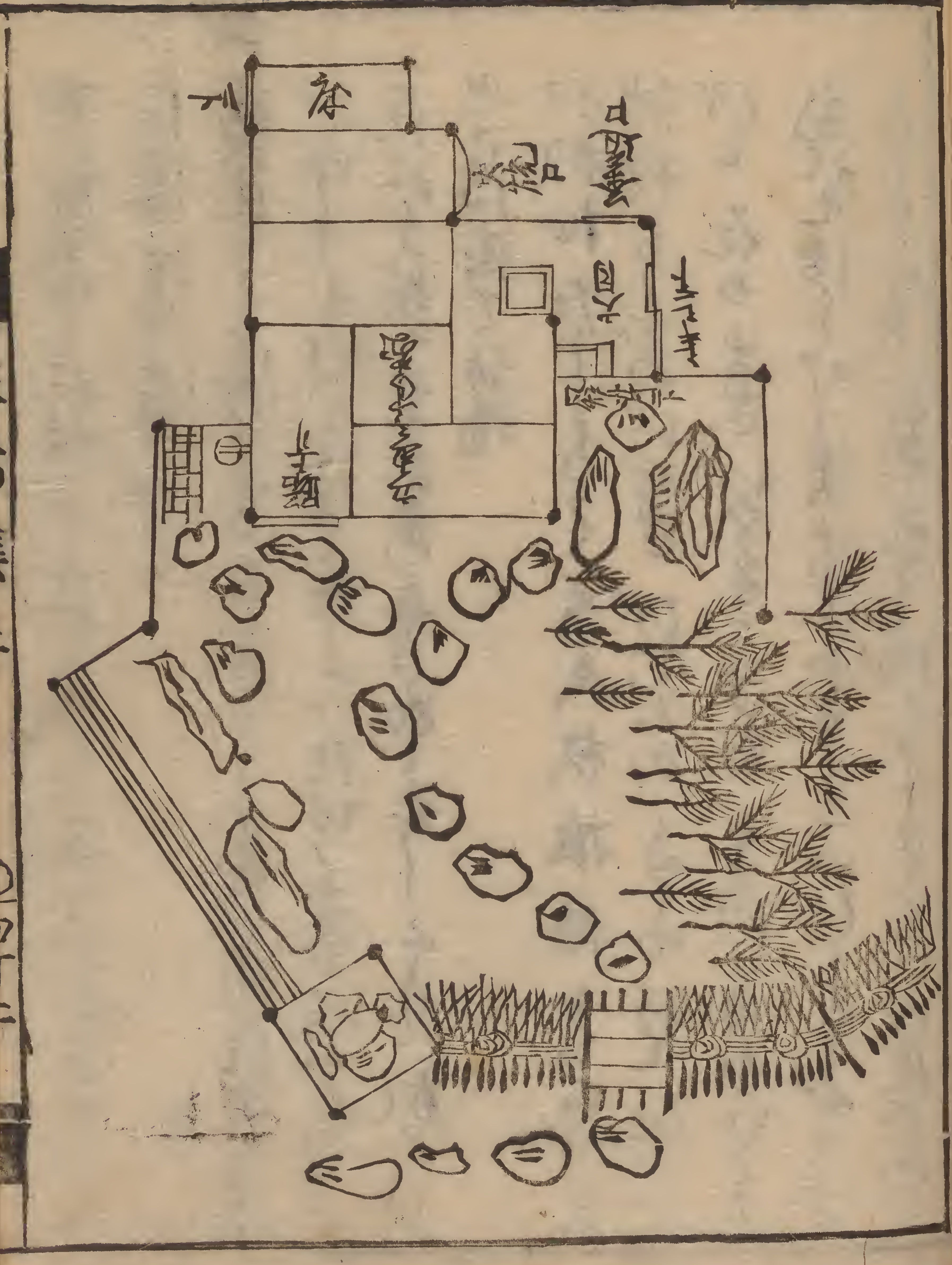




コシカケ
大目


大目


下腹雪隠
莊雪隠



右此花共ハ此様子ニ而秋之花之心ニ而何ニても
作事ニて可有事也
一 浪花此ことく之様ハ先ハ平之通り成共花留を作り山瀬
と作りて何も心得有之して花何れも真ニ挿の
花此外梅之葉此等の無き物ハ無し其外ニ松
也口伝極て秘傷
杉 楓 梅 たと もつこく 南天 枚 椎 樫 とちのき 柴
柿 楼 らん 蘇 いぶき びやくしん あすなろ 松 ひば
びと 扇めまき いぬまき つげ そての 葉 ひば
虎此尾 ... 葉も ... 一ハひぜんざくさ
色すすき 紅葉 ... 橘 ... 菊 ... 花 竹此類也